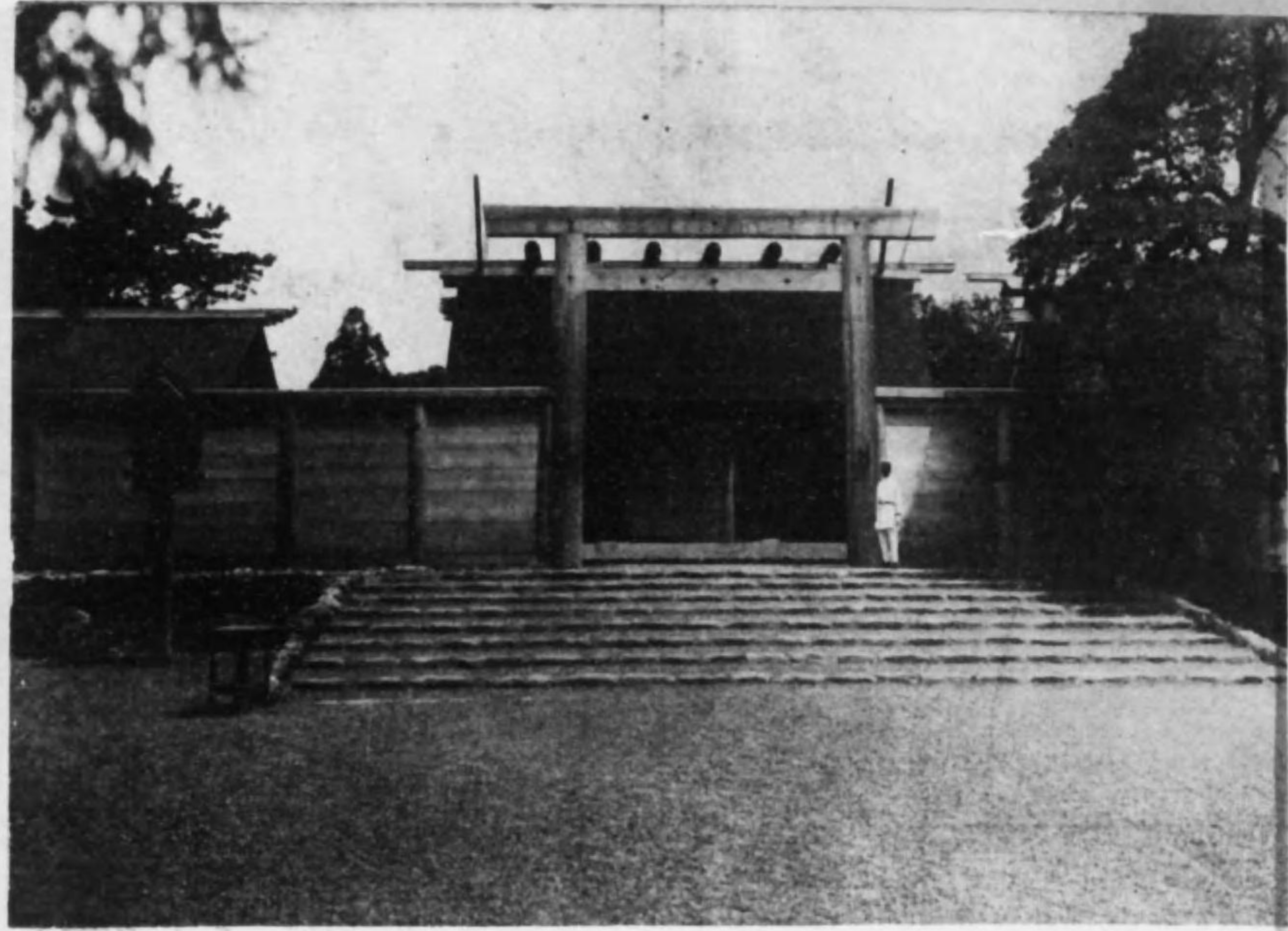


特 253
922

始





宮 神 田 熱

特253
722



熱田神宮鋪皇門



熱田神宮春破門

(熱田神宮應御貸下)



金
鯨



名
古
屋
城

は
し
が
き

名古屋汎太平洋平和博覽會を機とし名古屋へ來訪の觀客に名古屋市を中心とした簡
 單な觀光案内書を提供しよう、さう云つた目的で編纂されたのが本書であります。
 編輯上名古屋市内及名古屋市外の二部に分け、名古屋市内の部では電車又はバスを
 乗物とする三時間、五時間、一日コースと自動車による四時間コースとを擧げ極めて
 短時間を利用して市内觀光地の一巡を試みようとする観光客に便宜を與へ、市外の
 部では一日乃至三日位の日程で觀光プランを樹てられる場合に参考になる指針を示す
 ことを其の主眼として記述したものであります。名古屋市内附近に名勝地は頗る多く、
 又はるばる遠隔の地から名古屋を訪れられた觀光客の爲めに、旅の序に是非探勝され
 る様推奨したい所も可成り多くありますので、之等の點を考へ、相當範圍を擧めて掲
 載することにしました。
 尙觀光地に付ては夫々簡單な説明を試み各地特有の文化的資料をも含ませて記載し
 かうした方面に於ても觀客の興味をそゝる様努めたのであります。

昭和十一年十月

名古屋汎太平洋平和博覽會觀光部



目次

市内の部

- 一、名古屋汎太平洋平和博覽會……………
- 二、三時間乃至一日コース案の名所……………
- 熱田神宮—名古屋城—鶴舞公園—東本願寺別院—招魂社—大須觀音—覺王山日遍寺—名古屋港—東照宮—那古野神社—本願寺別院—中村公園豊公誕生地—加藤清正誕生地—東山公園—八事山興正寺—徳川園—徳川美術館
- 1 三時間コース……………
- A 名古屋驛中心
- B 博覽會場起點名古屋驛終點
- 2 五時間コース……………
- A 名古屋驛中心
- B 博覽會場起點名古屋驛終點
- 3 一日コース……………
- A 名古屋驛中心
- B 博覽會場起點名古屋驛終點
- 4 三時間コース……………
- A 名古屋驛中心
- B 博覽會場起點名古屋驛終點
- 三、其の他の名所……………
- 一、神社……………

若宮八幡宮—尾陽神社—片山八幡社—高座結御子神社	
二、寺院	一八
七ツ寺—萬松寺—建中寺—長母寺—笠覆寺—觀音寺—	
三、城址其の他舊跡	一九
古渡城址—末森城址—小林城址—荒子城址—藤原師長講居址—横井也有屋敷跡—切	
支丹塚—勢斷橋址—五條橋—一里塚—芭蕉句碑	
四、明治天皇御聖蹟	二四
五、偉人誕生地	二五
賴朝の誕生地—織田信長誕生地—前田利家誕生地	
六、古墳	二六
白鳥陵—斷夫山古墳—八幡山古墳	
七、墓所	二六
平手政秀墓所—織田信長墓所—平岩親吉墓所—星野勘左衛門墓所—片岡源五衛門墓所	
—田宮如雲墓所—井上志朗墓所	
八、公園	二九
秋山公園—田光公園—志賀公園—道德公園	
四、其の他諸案内	三〇

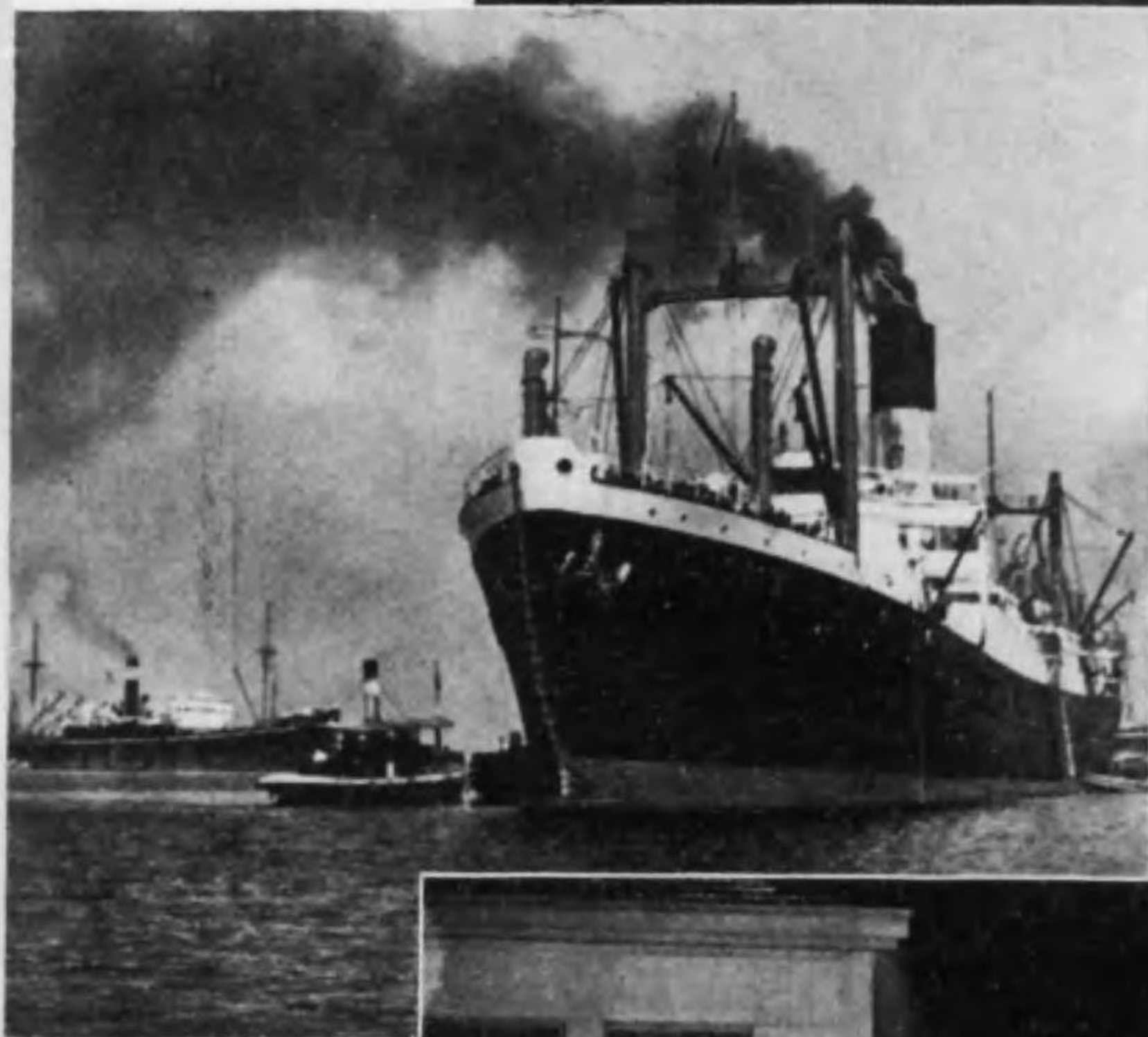
一、官公衙其の他	三〇
愛知縣廳—名古屋驛—愛知縣商工館—名古屋中央放送局—名古屋市廳舎—第三師團司令部—裁判所—名古屋國際飛行場—中川運河	
一、工場	三二
三、百貨店	三五
四、プール、ゴルフ・リンクス	三五
五、劇場と映畫館	三六
六、飲食店	三七
七、旋館	四〇
八、観光案内所	四四
九、土産品	四五

市外の部

一、知多半島巡り	四七
聚樂園—彌勒寺—新舞子—新舞子水族館—常滑—鴉の山—野間—内海—師崎—篠島—龜崎	
二、名古屋鐵道沿線（東部方面）	五〇



鶴舞公園



名古屋港



大須夜景

- 三、東海道沿線……………五一
 桶狭間古戰場―三河三弘法―豊川稻荷―香嵐溪―長篠古戰場
 安城―岡崎市―蒲郡―豊橋市―濱名湖巡り―濱松市―三方原古戰場―熊野御前遺蹟
- 四、靈山巡り……………五五
 鳳來寺―鳳來峽―奥山半僧坊―秋葉山―天龍下り
- 五、名古屋鐵道及高山線(犬山、岐阜、下呂方面)……………五七
 濟洲城―國府宮―一宮市―津島神社―小牧山―尾張三山―入鹿池―犬山城―ライン
 遊園地―ラインドリ―岐阜―養老の瀧―各務ヶ原―中山七里―下呂温泉
- 六、關西沿線(湯の山温泉鼓ヶ浦方面)……………六三
 湯の山温泉―阿漕ヶ浦―鼓ヶ浦―桑名
- 七、中央線、瀬戸電沿線、(瀬戸、定光寺、惠那峽方面)……………六四
 龍泉寺―瀬戸―高藏寺―定光寺―虎溪山―惠那峽―寢覺の床―淺間温泉(松本)
- 八、主なる年中行事……………六七



官祭招魂社



大須御音堂



西本願寺別院



東本願寺別院

市内の部

一、名古屋汎太平洋平和博覽會

國際間の文化及産業の發展並平和増進を目的とし、名古屋市主催、愛知縣並名古屋商工會議所の協賛により、昭和十二年三月十五日から同五月三十一日に至る七十八日間南區臨港地帯に開催される。直接總經費參百萬圓、敷地面積十五萬坪、産業、交通、教育、科學、土木、建築、社會、衛生、觀光、美術工藝等に關する出品があり、陳列館には産業本館を初め貿易館、外國館、近代科學館、機械館、電氣館、染織館、資源館、交通運輸館、航空館、農林館、水産館、教育館、社會館、保健衛生館、體育館、國防館、愛知名古屋館、觀光館、美術館、歴史館、慰勞館、通信館、海外發展館、ラヂオ館等があり、總建坪一萬三千餘坪、其の外、特設館、附屬館其の他特設物等完備せる諸施設を有し、參加國は太平洋沿岸諸國及本市に密接の關係ある諸國十數ヶ國により我國稀に見る調期的大博覽會である。

二、三時間乃至一日コース案の名所

熱田 神宮 南區熱田新宮坂町

官幣大社熱田神宮は伊勢神宮について我が國に於ける最も由緒の尊い大宮である。御祭神は三種神器の一なる草薙劍で正殿に安置し奉り、御相殿として天照皇大神、素戔鳴尊、日本武尊、宮簀媛命、建稻種命の五座の神を奉祀

ロ、動物園 元私營浪越動物園を市營としたもので、敷地三千六百坪餘、收容動物二百六十種を算するが、汎太博を機會に東山公園内に移轉する。尙東山公園の項參照。

ハ、公會堂 今上天皇御成婚記念事業として工費二百四萬餘圓を以て建設され昭和五年九月竣工した。

ニ、聞天閣 一名貴賓館と稱へ、明治四十三年の共進會に使用したもので、室町式の建築に成り廣闊な純日本式庭園を有する。松尾宗匠の作である。

ホ、猿面茶屋 もと名古屋城二の丸の後庭にあり、大正十五年愛知縣より本市に無償下付せられたもので、織田信長の時代、千利久の高弟古田織部重勝の好により作られたもので日本三茶室の一として有名である。床柱は屈曲せる松の粗木で作られ凸起して居る筋が猿面に見えるので此の名生ぜりと傳へられる。

ヘ、松月齋 猿面茶屋に隣接して建てられて居り尾張藩主齋莊の好みによるもので徳川末期の數寄屋建築の代表的のもので猿面茶屋と同時に縣より市に下付せられた。

右の外公園内には美術館、運動場、吉田庵、普濟記念壇、加藤伯銅像、テニスコート、兒童遊園場等がある。

東本願寺別院

中區下茶屋町

眞宗大谷派本願寺の別院である。もと泉龍寺と號して海東郡蟹江村にあり、天正九年祐賢の建立である。元祿三年藩主光友に請ひ、その許を得て名古屋御坊と稱したが、地域狹隘であつた爲、今の地（織田信秀の古渡城址、今その碑がある）を給はり五年七月懸所を移した。

堂宇は元祿五年以來逐次造成せられたが、其の後堂宇破損し、文化二年より十八年の歳月を費して再建されたのが現在の堂宇で、規模極めて壯大である。本尊は木造阿彌陀如來立像で湛慶の作と傳へられる。明治十一年以來

明治天皇皇后兩陛下屢々當院に御駐蹕あらせられた。境内櫻樹多く一如上入手植の老櫻がある。

招魂社

西區南外堀町六丁目

愛知縣官祭招魂社は尾張藩の旌忠社にその起源を發し藩籍奉還と共に官祭となり明治八年招魂社と改められ明治三十四年官祭招魂社となつた。

先帝陛下御即位の御儀式終禮の後に、賢所奉安殿を愛知縣に御下賜あらせられた際、此の招魂社を上名古屋町第三師團北練兵場の戦死記念建設地に移轉し、靖國神社に奉祀されてゐる愛知縣に屬する西南役、日清役、日露役を始め、其の他の戦役事變に君國の爲に殉難せられた將兵四千八百四十四柱の英靈を合祀した。昭和六年に至つてその地が交通不便になると、又本殿以下の諸建物も漸く腐朽して來たので、工兵第三大隊跡（現在地）に移轉することとなり、昭和十年三月に至つて、此の計畫が始められてより三年半、起工以來一年十ヶ月、工費拾七萬餘圓を以つて竣工し、四月遷座祭が行はれた。例祭は四月十六日、九月二十一日の春秋二季に行はれ、又例年四月中臨時大祭が執行される。

大須觀音（寶生院）

中區門前町四丁目

寶生院は北野山と號し眞福寺と曰ふ、俗に大須觀音と云つて有名である。眞言宗智山派の準別格本山で京都智積院の末寺である。もと尾張中島郡大須庄北野（今の美濃羽島郡小藪村大字大須）に在り、能信の開創にかゝり、正平五年後村上天皇の繪旨を賜はり彌津四天王寺の正觀音像を移し祀り、下つて慶長十七年徳川家康の命で現在の地に堂宇を造營し佛像、經藏、寺寶等に移轉した。明治二十五年類火に罹り、庫裏、客殿、内佛殿、寶藏、末山寮を殘して餘はすべて焼失し、以來漸次に再建せられて今日に至つた。現今の本堂は明治三十四年に落成したものである。開山以來當院は安養寺流の根本道場で本尊は木造正觀世菩薩立像（空海の作と傳ふ）である。寺寶は極めて多く

する。日本武尊、東夷御討征の初伊勢大宮にて神劍を拜受し以て平定の功を完うせられ、歸途尾張に留まり給ふて以來神劍は熱田に於て奉齋せられることとなつたのであるが、御歴代皇室を初め上下の御尊崇極めて厚く中には孝明天皇は十餘回に亘つて國家の安泰を祈請し給ひ、慶應二年の遷宮には格別の御社柄として國家の大典として嚴重に儀式を行はしめ給ふた。又明治天皇は明治元年勅使を御差遣遊ばされて、御太刀を御獻進王政復古の奉告に併せて國家の平靜を御祈りになつた。

本宮の社殿は明治二十六年の改造以來四十年の星霜を閲し、自然修理を加へ奉るべき状態となり、昭和七年假殿遷座の御儀が行はれ昭和十年十一月一日遷御の大儀が行はれた。

右社殿の外建造物には(イ)海上門、天武天皇朱鳥元年の創建で元本宮正門であつた。國寶。(ロ)春蔽門、東御門で天武天皇朱鳥元年の創建に係り扁額是小野道風筆であると傳へられる。(ハ)鎮皇門、西御門で天武天皇朱鳥元年の創建に係るが後焼亡し現在のものは慶長四年加藤清正の改築したものな貞享三年將軍綱吉の修理したものである。國寶。(ニ)築土塀、織田信長が今川義元を討つた時、戰勝奉養の爲奉納した築地で、石灰を油で煉り堅め造られたものである。尙此の外、舊土用殿、御饗殿、長殿、御羽車舎、佐久間燈籠等夫々由緒の深い建造物がある。

名古屋城 西區南外堀町

- | | | | | |
|----------|-----------------|--------------|-------------|----------|
| 一、天守閣拜觀料 | 大人三十錢 小人十五錢 | 拜觀 | 一、四月ヨリ十月マデ | 八時ヨリ四時マデ |
| 拜觀料 | (團體割引アリ) | 時刻 | 二、十一月ヨリ三月マデ | 八時ヨリ三時マデ |
| 二、御殿拜觀料 | 一人一圓(外苑、天守閣ヲ含ム) | 但御殿拜觀ハ右時刻ノ | | |
| 三、外苑參入料 | 大人十錢 小人三錢 | 三十分後ヨリ三十分前マデ | | |

慶長十五年徳川家康が其の子義直の爲北國西國二十餘の諸大名に命じて築城せしめたもので藩祖義直以來尾州侯三百年の居城たりし所である。慶長十四年家康自ら城地を相し、牧助右衛門長勝等普請奉行五名を命じ翌十五年二月

より築城に着手し三月加藤清正御城普請總大將となつた。城廓の竣工したのは十七年正月である。

名古屋城天守閣は加藤清正一手を以て造營したもので五重から成り、その高さ二十四間二尺餘ある。閣上には世に名高い一對の金鯢がある。其の身は木製で鉛、銅、金の三枚張りである。南にあるが雌と云はれ、直高八尺一寸五分鱗は約百十枚、北鯢即雄は、直高七尺七寸五分鱗は約九十枚。以上黄金の量は大判金にて千九百四十枚、小判にして一萬七千九百七十五兩と言ふ。

御殿は、主として慶長、寛永兩期の造營に成り、玄關、表書院對面所、上洛殿、黒木書院、上御膳所、梅の間等に分たれ、桃山時代及江戸時代初期の最も華麗なる書院造の實例を示してゐる、その中上洛殿は將軍家光上洛の際新造せられたもので、明治天皇、大正天皇、今上天皇の御座所に充てられた御殿である。明治四年徳川家から城地を官に納め、六年名古屋鎮臺が置かれた。又本丸は二十六年六月名古屋離宮となり、明治天皇以來屢々行幸を仰いだ。昭和五年名古屋市に下賜せられた。御殿、天守閣、各櫓、各門等の建物は御殿内の古美術品と共に國寶であり、區域一帯は史蹟に指定されて居り名木権は天然記念物である。

廓内には現在第三師團司令部、歩兵第六聯隊、野砲兵第三聯隊、輜重兵第三聯隊、衛戍病院等がある。

鶴舞公園 中區鶴舞町

明治四十三年關西府縣聯合共進會々場跡を公園として設備したもので、近世フランス式を加味した自然迴遊式公園で、其の施設と位置に依り、市の中央公園として最もよく利用されてゐる。總面積七萬七千坪。入口中央線ガード下に掲げられてゐる「鶴舞公園」の四字は故桂公爵の書である。

園内に次のものがある。

イ、圖書館 大正天皇御登極の御大典を記念する爲工費四十萬圓を以て建設され、大正十二年十月開館した。

ロ、動物園 元私營浪越動物園を市營としたもので、敷地三千六百坪餘、收容動物二百六十種を算するが、汎太博を機會に東山公園内に移轉する。尙東山公園の項參照。

ハ、公會堂 今上天皇御成婚記念事業として工費二百四萬餘圓を以て建設され昭和五年九月竣工した。

ニ、聞天閣 一名貴賓館と稱へ、明治四十三年の共進會に使用したもので、室町式の建築に成り廣闊な純日本式庭園を有する。松尾宗匠の作である。

ホ、猿面茶屋 もと名古屋城二の丸の後庭にあり、大正十五年愛知縣より本市に無償下付せられたもので、織田信長の時代、千利久の高弟古田織部重勝の好により作られたもので日本三茶室の一として有名である。床柱は屈曲せる松の粗木で作られ凸起して居る節が猿面に見えるので此の名生ぜりと傳へられる。

ヘ、松月齋 猿面茶屋に隣接して建てられて居り尾張藩主齋莊の好みによるもので徳川末期の數寄屋建築の代表的のもので猿面茶屋と同時に縣より市に下付せられた。

右の外公園内には美術館、運動場、吉田庵、普選記念壇、加藤伯銅像、テニスコート、兒童遊園場等がある。

東本願寺別院

中區下茶屋町

眞宗大谷派本願寺の別院である。もと泉龍寺と號して海東郡蟹江村にあり、天正九年祐賢の建立である。元祿三年藩主光友に請ひ、その許を得て名古屋御坊と稱したが、地域狹隘であつた爲、今の地（織田信秀の古渡城址、今その碑がある）を給はり五年七月懸所を移した。

堂宇は元祿五年以來逐次造成せられたが、其の後堂宇破損し、文化二年より十八年の歳月を費して再建されたのが現在の堂宇で、規模極めて壯大である。本尊は木造阿彌陀如來立像で湛慶の作と傳へられる。明治十一年以來

明治天皇皇后兩陛下屢々當院に御駐轡あらせられた。境内櫻樹多く一如上入手植の老櫻がある。

招魂社

西區南外堀町六丁目

愛知縣官祭招魂社は尾張藩の旌忠社にその起源を發し藩籍奉還と共に官祭となり明治八年招魂社と改められ明治三十四年官祭招魂社となつた。

先帝陛下御即位の御儀式終禮の後に、賢所奉安殿を愛知縣に御下賜あらせられた際、此の招魂社を上名古屋町第三師團北練兵場の戦死記念建設地に移轉し、靖國神社に奉祀されてゐる愛知縣に屬する西南役、日清役、日露役を始め、其の他の戦役事變に君國の爲に殉難せられた將兵四千八百四十四柱の英靈を合祀した。昭和六年に至つてその地が交通不便になると、又本殿以下の諸建物も漸く腐朽して來たので、工兵第三大隊跡（現在地）に移轉することとなり、昭和十年三月に至つて、此の計畫が始められてより三年半、起工以來一年十ヶ月、工費拾七萬餘圓を以つて竣工し、四月遷座祭が行はれた。例祭は四月十六日、九月二十一日の春秋二季に行はれ、又例年四月中臨時大祭が執行される。

大須觀音（寶生院）

中區門前町四丁目

寶生院は北野山と號し眞福寺と曰ふ、俗に大須觀音と云つて有名である。眞言宗智山派の準別格本山で京都智積院の末寺である。もと尾張中島郡大須庄北野（今の美濃羽島郡小藪村大字大須）に在り、能信の開創にかゝり、正平五年後村上天皇の繪旨を賜はり攝津四大王寺の正觀音像を移し祀り、下つて慶長十七年徳川家康の命で現在の地に堂宇を造營し佛像、經藏、寺寶等を移轉した。明治二十五年類火に罹り、庫裏、客殿、内佛殿、寶藏、未山寮を燒して餘はすべて焼失し、以來漸次に再建せられて今日に至つた。現今の本堂は明治三十四年に落成したものである。開山以來當院は安養寺流の根本道場と本尊は木造正觀世音菩薩立像（空海の作と傳ふ）である。寺寶は極めて多く

世に眞福寺本と稱せられる諸種の珍籍を蔵してゐる。

境地は大須と呼ばれ附近には映畫館、演藝場、飲食店等娛樂機關多く歡樂境である。

覺王山日蓮寺

東區田代町大字四聖堂

本邦佛教各宗派管長の所管に屬する。

西曆一八九八年(明治三十一年)一月英領印度ビツブラークの地方藍尼園の西南五里餘の小丘を發掘して一大石
襍中より種々の寶石と共に佛舍利一壺を得たが、刻文により釋尊の舍利で釋迦族の所有なることを確め、翌年二月
印度政府は之を暹羅國王に贈り、國王は更に之を緬甸、錫蘭の二國に頒與した。其處で我同國公使稻垣滿次郎氏は
同國王に對し我國に頒與せられんことを請うて許され、三十三年五月大谷光演奉迎正使となつて盤谷府に赴き七月
之を護して長崎に歸著先づ船台寺に安んじ大阪四天王寺を經て京都妙法院寢殿を假奉安所と定めた。明治三十五年
十一月奉安の地を名古屋と決定し、妙法院より當市萬松寺に遷し、次いで今の地を選んで三十七年十一月萬松寺よ
り遷安した。

本尊黄金釋迦牟尼佛坐像は、暹羅國より佛舍利と同時に贈られたもので、凡そ一千年前の鑄造にかゝる純シヤム式
の佛像である。

名古屋港 南區港本町

名古屋市の西南端伊勢灣に位し中部日本、海の玄關である。昔は桑名七里の渡として知られ熟田神戸町の地先にあ
つた。明治二十九年現在の地に第一期工事着手以來四十年、目下第四期工事中で、總工費三千七百餘萬圓、昭和十
三年工事完成の時は入港大汽船一萬八千噸、以下同時碇泊船舶隻數六十六隻、一ヶ年一千萬噸の貿易が出来ること
となり、近代的設備の充實せる港として中部日本産業振興に貢獻あるものと大いに期待せられてゐる。昭和九年度

の入港船舶隻數十萬九百餘隻、同噸數一千六百五十六萬七千餘噸、輸出入額二億四百萬圓餘に上つてゐる。

東照宮 西區茶屋町二丁目

那古野神社の西に接す。縣社。

元和五年徳川義直城内三之丸天王社の西地を下して社殿を造營し家康の神像を奉安し、奉行、導師、別當を命じて
奉齊せしめた。明治八年現在の地に假遷座、翌年正遷宮が行はれた。

祭神は創建當時は中央家康、左日吉の大神、右日光權現で明治八年義直の靈を、三十一年慶勝の靈を合祀したが、
大正十一年尾陽神社を建て義直、慶勝の靈を奉遷した。例祭は四月十七日である。

那古野神社 西區茶屋町二丁目

縣社。昔、天王社と稱し城内三之丸にあつた。延喜十一年勅に依つて創立せられ、天文元年織田信秀と今川氏豊と
の那古野合戦に兵火に罹り、同八年信秀が再興した。

名古屋城築城の際當社境内となる爲、他に移さんとしたが遷移の神籠がなかつたので、三之丸に据置き鎮守の神と
して厚く祀つた。明治九年今の地(もとの明倫堂の地)に遷座、那古野神社と改號せられたのは明治三十二年であ
る。

中扉は素戔鳴尊、奇稻田姬命、左扉は兵主神、右扉は八柱神を祀る。拜殿は三之丸鎮座當時の建物である。例祭は
七月十五、十六の兩日である。

本願寺別院 中區門前町七丁目

眞宗本願寺派本願寺の別院で俗に西懸所又は西別院といふ。

もと願証寺といつて、伊勢の長島杉江村にあり、後清洲に再興され、慶長遷府の際、今の地に移され、享保二年西本願寺の末寺となり三年本山の發願所として輪番を置かれ、西本坊と號した。明治九年本願寺別院と改稱した。統緒末寺はもと伊勢、美濃、尾張三國の一派の寺院であつたが本坊となつてから尾州領内一派の寺院を支配し現今は伊勢、三河、尾張三國の末寺を管轄する。

中村公園

西區中村町字高畑

豊臣秀吉誕生地を記念する爲豊國神社を中心に設立せられたもので大正十二年愛知縣より本市に移管せられ面積二萬六千坪、將來三萬二千六百坪に擴張する計畫になつてゐる。

地形は平坦で神苑、運動場、花壇の三に分れ、豊國神社、記念館を繞つて風置池、蓮池あり、豊公誕生地の北方に接續して、大正天皇御手植松がある。

豊公誕生地

中村公園内豊國神社の東側に在る。太閤屋敷又は木下屋敷と云ふ。豊國神社の東方に太閤山常泉寺があり堂前に豊公産湯井と稱するものがあり、公の銅像も建てられてゐる。常泉寺には加藤清正が大阪から移したと傳へられる木食上人作秀吉木像が安置されてゐる。

加藤清正誕生地

中村公園に隣接する妙行寺が清正の誕生地として知られてゐる。慶長十五年築城の際清正が祖先善提の爲、其の誕生地に妙行寺を移轉再建したものである。

東山公園

東區田代町

本市東郊田代町字唐山一帯の山紫水明、風光絶佳な形勝の地に在り、動・植物園を併置する一大公園で都市計畫第十六號公園八十一萬坪の内二十四萬四千四百九十五坪を以て昭和十年四月開園せられた。

植物園は新設費二十四萬餘圓、動物園は五十餘萬圓を以て目下施設事業中で博覽會開催迄には完成の豫定である。植物園は名古屋市東山植物園と名付けられ公園中央廣場に建坪四百六十五坪を以て温室を設け、之を中心としてその周圍に二十三區の植物分科園を設置し、兒童園、ドライブ・ウェイ等を設ける。

動物園は現在鶴舞公園内のものが僅に三千六百坪で敷地狹隘、設備又頗る不完全であつて、その擴張問題は本市多年の懸案であつたが、博覽會を機會として之を本公園内に移轉擴張し、名古屋市東山動物園と名付ける。本公園正面入口の地約四萬八千坪を擁し地域内に池あり、山あり、平坦地があつて、地形極めて變化に富んでゐる。此の地形を利用して動物の保健と観覽者の利便に意を用ひた新しい建設様式による動物收容場を設けるが、殊に偉觀とすべきは園内の數ヶ所に無柵式動物收容法を採つて動物原産地の風物を模し、動物を放し飼ひとし殆んど自然の野に於けるが如く動物の生態を観察せしめんとすることである。其の外大小禽舎、動物溫暖室、アフリカ動物部、北極動物部、動物分類園、郷土動物部、水族館等に亘つて何れも最新の施設をし、又前世紀に棲息した恐龍、劍龍等の實物大の模型を池邊に設置する。又適當な場所に休憩所、野外劇場、兒童遊園地、ラヂオ塔、陳列場等を設備して興趣盡くる所なく市民一日の行樂を境ならしめる計畫である。

八事山興正寺

中區廣路町八事山

熱田神宮ノ東方二里五丁 鶴舞公園ノ東南一里二十八丁
電車 千早又ハ今池停留所ヨリ新三河鐵道ニテ二十分
バス 千早又ハ公園前停留所ヨリ同社バスニテ十七分

東西二山に分れ東山を遍照院、西山を普門院と云ひ高野山金剛寺の末寺で眞言宗の準別格本山一等等である。貞享三年、天瑞圓照、高野山より此の地に来て草庵を結び、五年藩主光友に謁して此の寺を建立し、元祿元年東山

の地を賜はり二年西山の地を賜はつた。東山先づ開け、高野山の奥の院に擬して路の左右に石造の寶篋印塔を並立し、女人門よりは女人結界とした。總本尊銅造大日如來坐像（元祿十年光友の鑄造せしめたもの）は東山の最高地（吞海峯と名づく）に、東山の本尊木造阿彌陀如來像（悪心僧都作）は東山の阿彌陀堂に、西山の本尊木造阿彌陀如來坐像（慈惠大師作）は西山の阿彌陀堂に夫々安置せられてゐる。附近には秀桑園梅園、妙見堂、般若堂、香開山御野立跡、遊園地等の行樂地多く、名古屋東北の勝地である。又八事山東方約一里のところに「和合ゴルフリンクス」がある。

徳川園 東區徳川町二丁目

舊尾張藩主徳川家の邸宅で昭和六年當主義親侯より本市に寄附せられ、爾來設備を加へ徳川園と稱して公開した。總面積約八千六百坪餘庭園は閑雅幽邃の氣分に充ちてゐる。庭石は名古屋城の二の丸にあつたものを譲受けたものである。建物は本館及清流軒が重なるもので構造、風格頗る豪華で氣品に富んでゐる。清流軒は二代光友公誕生當時の建物である。尙本園には明治四十三年共進會當時大正天皇が尙皇太子にましますとき御蒙臨を仰いだ御聖蹟を有する。

入園料 大人 五錢、小人 一錢

徳川美術館 東區徳川町二丁目

徳川園に隣接し、敷地二千七百餘坪元徳川家大曾根別邸の一部である。藩祖義直以來三百年當家に傳來せる多量の什寶美術品及古書籍等を集めて、美術館を建設し之に經營維持に必要な基金を添へて財團法人尾張徳川黎明會に徳川家から寄附されたもので、美術館建築は簡素と適當の美觀とを旨とし、様式は日本建築殊に城砦建築を加味した近世式建築である。昭和十年四月竣功、同年十月開館された。所藏品には御宸筆類、秀吉、家康等着用の甲冑、刀劍、名器、書畫等七千餘點、月曜日及祝祭日を除き毎日開館。 観覧料 一人 金十錢

八事山興正寺



名古屋觀光ホテル



東山公園



覺王山 釋迦牟尼佛骨奉安塔





豊公誕生之地



宮 照 東



那古野神社祭禮



源頼朝産湯の池

1 三時間コース
A 名古屋驛中心

順序	名所	電所	要時	参拜見物	道	順
1	名古屋城	二十分	十七分	一時間	名古屋驛中心	
2	熱田神宮	三十八分	二十八分	二十分	熱田神宮	
3	鶴舞公園	三十分	十五分	二十分	鶴舞公園	

順序	名所	電所	要時	参拜見物	道	順
1	名古屋港	八分		十五分	名古屋港	
2	熱田神宮	十八分		二十分	熱田神宮	
3	東本願寺別院	十二分	十三分	二十分	東本願寺別院	
4	名古屋城	二十八分	十八分	一時間	名古屋城	
5	招魂社	七十分	九分	七分	招魂社	

B 博覽會場起點
名古屋驛終點

博覽會場/南方十二丁
築港乘車
旗古町/東北一里十丁、築港乘車
神宮西門へ
東本願寺別院/北車二丁、神宮東門乘車
東本願寺別院/北車一里、拜觀時間ニ注意
パラス下/南車六丁、拜觀時間ニ注意
名古屋驛前/南車六丁、拜觀時間ニ注意
名古屋驛前/南車六丁、拜觀時間ニ注意

2 五時間コース
A 名古屋驛中心

順序	名	所	電車所要時間	徒歩所要時間	参拜見物時間	道	順
1	名古屋城		二十分	十七分	一時間	〔名古屋驛ノ東北二十八丁、拜觀時間ニ注意〕 〔名古屋城停留所下車徒歩ニテ北へ七丁〕	
2	招魂社		徒歩七分		八分	名古屋城ノ南方約六丁	
3	大須觀音			十分	十五分	〔名古屋城停留所ノ南方二十六丁〕 〔大須門前下車名古屋城停留所乗車西へ三丁〕	
4	熱田神宮			十八分	二十分	〔大須ノ南方一里三丁、大須乗車〕 〔神宮西門下車東へ〕	
5	東本願寺別院		十二分	十三分	二十分	〔神宮ノ北方二十七丁、神宮東門乗車〕 〔東別院下車西へ〕	
6	鶴舞公園		十一分	七分	二十五分	〔東別院ノ東北十五丁、東別院乗車〕 〔鶴舞公園下車東へ〕	
7	覺王山		二十八分		二十五分	〔鶴舞公園ノ東北一里十三丁、鶴舞公園乗車〕 〔覺王山下車北へ五丁〕	
歸路			三十四分	二十五分		〔覺王山乗車〕 〔名古屋驛前下車〕	

B 博覽會場起點 名古屋驛終點

順序	名	所	電車所要時間	徒歩所要時間	参拜見物時間	道	順
1	名古屋港		八分		十分	〔博覽會場ノ南方十二丁〕 〔築港下車〕	
2	熱田神宮		十八分		二十分	〔名古屋港ノ東北一里十丁、築港乗車〕 〔旗屋町下車徒歩ニテ南へ二丁神宮西門へ〕	
3	東本願寺別院		十二分	十三分	二十分	〔神宮ノ北方二十七丁、神宮東門乗車〕 〔東別院下車西へ〕	
4	名古屋城		二十八分	十八分	一時間	〔東別院ノ北方一里、拜觀時間ニ注意〕 〔バス下茶屋町乗車〕 〔名古屋城停留所下車徒歩ニテ北へ七丁〕	
5	東照野神社		徒歩三分		十五分	名古屋城ノ南方八丁	
6	鶴舞公園		二十分		二十分	〔名古屋城東南一里七丁〕 〔鶴舞公園停留所乗車〕 〔鶴舞公園下車東へ〕	
7	覺王山		二十八分		二十五分	〔鶴舞公園ノ東北一里十三丁〕 〔覺王山下車北へ五丁〕	
歸路			三十四分	二十五分		〔覺王山乗車〕 〔名古屋驛前下車〕	

3 一日コース
名古屋驛中心

順序	名所	電車所要時間	徒歩所要時間	参拜見物	道	順
1	名古屋城	二十分	十七分	一時間	名古屋驛ノ東北二十八丁拜觀時刻ニ注意	
2	招魂社	徒歩七分	八分	十五分	名古屋城ノ南方六丁	
3	東照宮	徒歩三分	十五分	十分	招魂社ノ南西二丁	
4	大須觀音	徒歩三分	二十分	十分	名古屋城ノ南方二十六丁名古屋城停留所ノ南西二丁	
5	西本願寺別院	徒歩三分	十分	十分	大須觀音ノ南二丁	
6	熱田神宮	十八分	二十五分	十分	西本願寺別院ノ南一里二丁大須乘車	
7	名古屋港	二十三分	二十分	十分	熱田神宮ノ西一里十丁	
8	東本願寺別院	十一分	二十分	十分	名古屋港ノ又ハ旗屋町乘車、築港下車	
9	鶴舞公園	二十八分	二十分	十分	東本願寺別院ノ東一里三十一丁	
10	覺王山	十四分	三十分	十分	鶴舞公園ノ東一里十三丁鶴舞公園乘車	
11	東山公園	三十二分	三十分	十分	覺王山ノ南二丁四丁覺王山乘車	
12	徳川園	三十八分	五十分	十分	東山公園ノ西一里三十二丁東山公園乘車	
13	中村公園		二十分	十分	徳川園ノ西一里六丁山口町乘車	

A 名古屋驛中心
4 四時間コース
(自動車ニヨル)

順序	名所	自動車所要時間	参拜見物時間	道	順
1	名古屋城	七分	五十分	名古屋驛ノ東北約三軒 拜觀時間ニ注意	
2	東本願寺別院	十分	二十分	名古屋城ノ南方約四軒半 市役所前ヲ經テ大津町通ヲ南へ	
3	熱田神宮	七分	二十分	東本願寺別院ノ南方約三軒	
4	八事山興正寺	十五分	十五分	熱田神宮ノ東方約八軒半 澤上、高辻、石川橋ヲ經テ八事ニ至ル	
5	東山公園	十分	二十分	八事ノ北方約四軒半 山手通、四谷通ヲ經テ東山公園ニ至ル	
6	覺王山	六分	十五分	東山公園ノ西北約三軒	
7	鶴舞公園	十分	十五分	覺王山ノ南西約四軒半 今池、大久手、山ノ田、曙町ヲ經テ公園ニ至ル	
8	大須觀音	四分	十一分	鶴舞公園ノ西方約一軒半 大須觀音ヨリ約二軒半	

名古屋市廳舎



徳川美術館



徳川園



新名古屋驛

B 博覽會場起點 名古屋驛終點

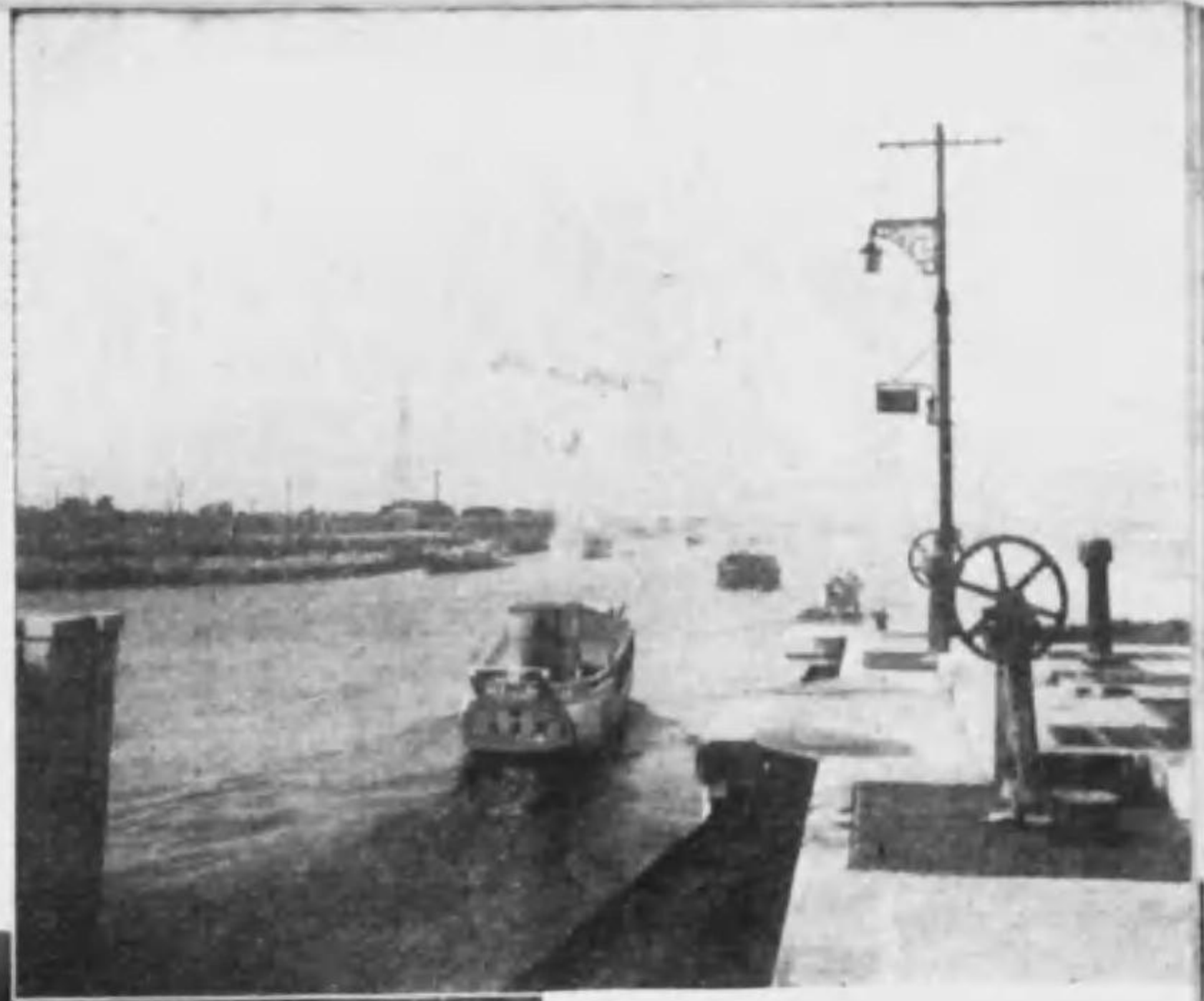
順序	名	所	自動車	新裝時間	參拜元數	道	順
1	名古屋港		三分	十五分		博覽會場ノ南方約一軒半	
2	熱田神宮		十分	二十分		名古屋港ノ東北約五軒	
3	東本願寺別院		七分	二十分		熱田神宮ノ北方約三軒	
4	名古屋城		十分	五十分		東本願寺ノ北方約四軒半	
5	覺王山		十七分	十五分		名古屋城ノ東南約七軒半	
6	東山公園		六分	十五分		覺王山ノ東南約三軒	
7	鶴舞公園		十五分	十五分		東山公園ノ西方約六軒 〔今池、大久手、山ノ田、曙町ヲ經テ公園ニ至ル〕	
8	大須觀音	歸路	四分	十三分		鶴舞公園ノ西方約一軒半	

乗車賃

市營 電車バス共に六錢均一 バスの乗換は出来ない
電車バス、又ハ バス—電車の乗換 二錢
新三河鐵道 電車 千早—八事間 十一錢
バス 同 十錢

タクシー自動車 最初の二哩迄五十錢爾後三分の一哩を増す毎に十錢、
(五人乗一臺に付) 待時間、四分に付十錢、時間貸一時間三圓以内

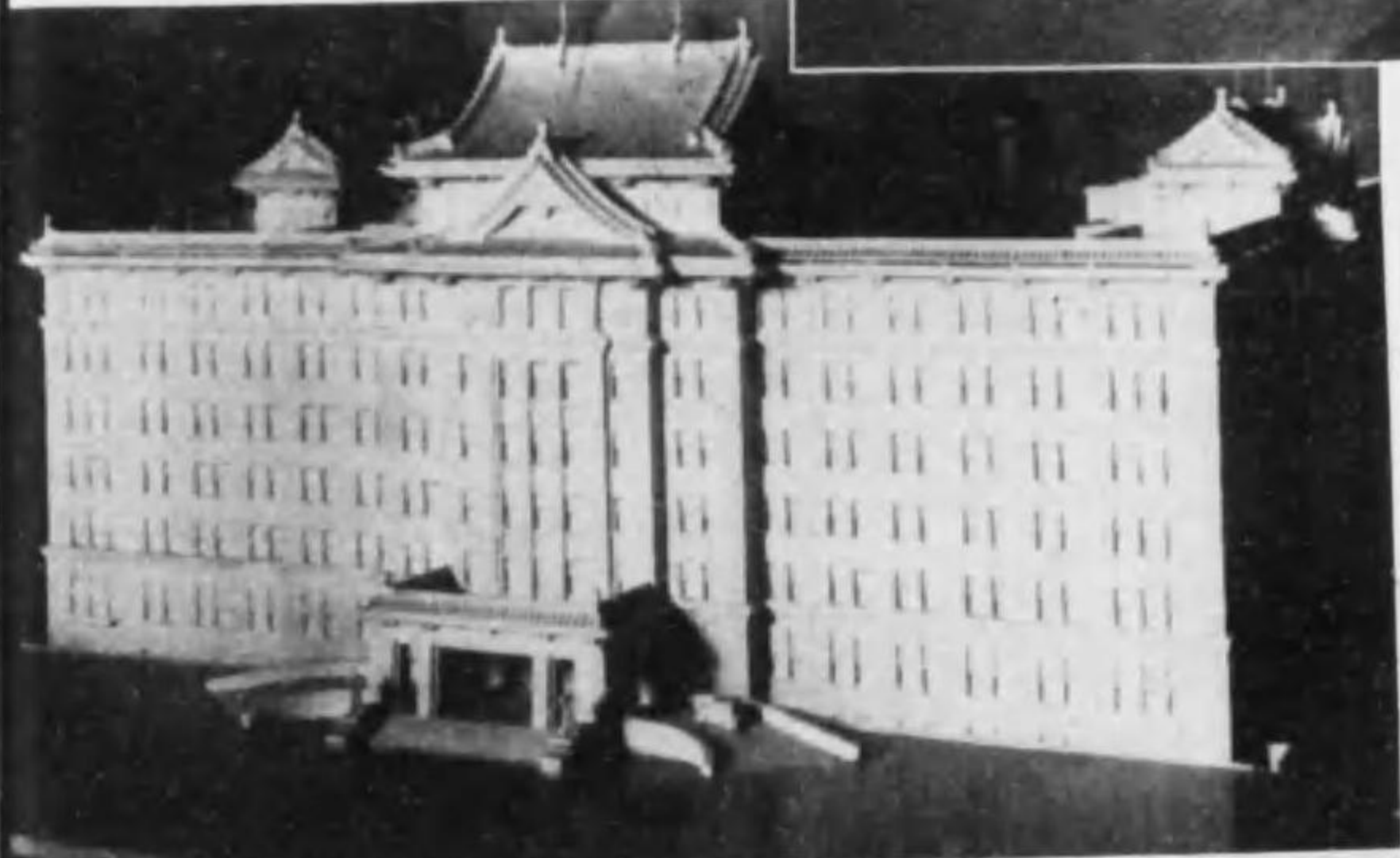
公園—八事間 十錢 石川橋—八事間 六錢



中川運河



り通路小廣



舎廳新縣知愛



部一の帶地場工



三、其の他の名所

一、神社

若宮八幡社

中區末廣町三丁目 大須觀音ノ東北約五丁。市電矢場町停留所カラ西へ約三丁本町通市バス若宮前下車

縣社。祭神は中央仁徳天皇、左應神天皇、右武内宿禰である。もと那古野庄今市場（今の第三師團司令部の南方）にあり、慶長十五年名古屋築城の際現在の地に奉遷した。例祭は五月十六日。

尾陽神社

中區御器所町北市場 鶴舞公園ノ南六丁

縣社。藩祖義直公と藩主慶勝公とを祀つた神社で、大正十一年名古屋開府三百年記念事業として設立された。

片山八幡社

東區大曾根町 市電赤塚停留所北六丁

縣社。祭神、中央は品陀別命、左は天照大御神、右は菊理媛命である。

鎮座年月不詳、元祿八年藩主光友の命により再興せられた。

高座結御子神社

南區熱田東町高藏 市電高藏停留所ノ西方

熱田神宮の攝社で饒速日命の御子高倉下命を祀る。社地は廣く古木繁茂して神寂である。

本殿は織田信長の造營で、享貞三年に改造せられた。

二、寺 院

七 ツ 寺

中區門前町五丁目 大須觀音ノ東南約半丁

稻園山と號す。眞言宗智山派に屬し京都智積院の末寺である。

本尊は木造阿彌陀如來坐像、脇土同觀音、勢至二菩薩坐像で、行基の作と云ひ傳へられ本堂は桃山時代を偲ぶ建造物で、共に國寶である。

萬 松 寺

中區裏門前町一丁目 大須觀音ノ東約二丁

市電上前津停留所カラ西北へ約三丁市バス萬松寺通停留所カラ西へ約二丁

曹洞宗の寺で能登總持寺の末寺である。もと愛知郡名古屋村に在り織田信秀が大雲永瑞と謀つて天文九年堂宇を建立して龜兵山萬松寺と稱し大雲を開山とした。慶長遷府の際小林邑即今の地に移建す。信秀の歿後茲に葬り今その墓がある。

建 中 寺

東區筒井町一丁目 市電平田町停留所東約三丁

德興山と號す。淨土宗續西派に屬し京都智恩院の末寺で尾張德川家代々の菩提所である。慶安四年藩主光友、藩祖義直の爲めに經始し五年大嚴、方丈、鐘樓、山門、書院、庫裏等落慶す。

巨構壯麗當時府下寺院の第一と稱された。開山は龍高龜吞て慶安五年八月參内して、住僧代々紫衣聽許の輪旨を賜はつた。

長 母 寺

東區矢田町 瀬戸電本町停留所ヨリ東北約一里半、矢田停留所下車北へ約一丁

靈鷲山と號す。臨濟宗で東福寺の末寺である。もと龜鏡山桃尾寺と稱し治承三年山田次郎源重忠が其の母長母院の

爲に創建したもので開山は觀勝坊といふ。桃尾寺は其の後衰頽したが山田道圓坊夫妻七堂伽藍を建立し今の宗に改め新に無住を以て開山とした。無住國師の木造坐像は鎌倉時代の作風で無住自刻のものといはれ國寶である。

笠 覆 寺

南區笠寺町 鶴舞公園ノ東南約二里市バス笠寺停留所下車

觀 音 寺

南區荒子町 東本願寺ノ西方約一里半下ノ一色電車荒子停留所下車東へ

世に名高い尾張四觀音は、此の二寺及東春日井郡志段味村の龍泉寺、海部郡甚目寺町の甚目寺の四ヶ所をいふので慶長十五年名古屋築城の際四方の地鎮として定められたものである。

笠覆寺は俗に笠寺觀音と稱す。初め小松寺と號し大須寶生院の末寺で天平中禪光の開基である。後荒廢して佛像雨露に冒されてゐたのを、或貧女己の笠を以て之を覆ひ、後彼女藤原兼平に嫁し、延長年間兼平之を復興して笠寺と號したと傳へられる。鐘樓は甚古雅で鐘は慶長三年の後銘あり、尾張第一の古鐘で本尊十一面觀世音菩薩は禪光が呼續の浦に漂着した靈木を以て刻んだものと云はれる。

觀音寺は世に荒子の觀音と稱し、野田密藏院の末寺で天平元年泰澄の草創と傳へ、往古は郡中無雙の靈場と稱せられたが後衰廢し永祿中智智院全運が再興し、天正四年前田利家は此地の出生の爲大に之を崇敬して修造を加へた。本尊の正觀世音菩薩本像は泰澄の作と傳へられ、堂舎の中多寶塔は後奈良天皇天文の建築にかゝり國寶である。

三、城址其の他舊跡

古 渡 城 址

東別院境内

末 森 城 址

東區田代町城山 譽王山停留所ノ東方約四丁

織田信秀天文三年那古野城を子信長に譲り古渡に城を築いて之に移つた。後天文十七年末森城を築いて東方三河方面に對する備とし古渡城から此處に移り住んだ。
末森城は信行が信秀の後を繼いでこの城に居たが間もなく廢城となつた。末森城址には青年修養の殿堂たる昭和廳堂が建てられてゐる。

小林城址 矢場町停留所ノ南約一丁

中區矢場町五ノ切清淨寺(矢場地蔵)にある。
天文の頃當國の守護斯波氏の一族牧下野守長義の子與三左衛門長清の築いたものである。長清は前津小林村四千石を領し信長の妹を娶つてゐた。清淨寺内に長清の墓がある。

荒子城址 南區荒子町大字大和ヶ池 荒子觀音ノ南方

始め前田藏人利昌此處に築き子利久、其の弟利家、利家の子利長等居住したが、天正三年利家は越前北の莊に移り利長も同府中に移つて廢城となつた。現在は一帯宅地又は耕地となつて居るが、此地の西を流れる小流は古渡の源と云ひ南方の杜にある小社は舊城内の鎮守であつたと傳へられてゐる。

藤原師長謫居址(琵琶塚、清音寺) 南區瑞穂町 市バス井戸田停留所ノ東

治承三年太政大臣藤原師長、平清盛の怒に觸れ左遷せられて此地に住した。「此所妙音院相國師長配所屋敷跡」なる銘ある標柱が建てられてゐる。

師長は幼より音律に長じ、月明の夜熱田神宮前で、琵琶の秘曲を弾じ、其の音に神明感應あらせられ寶殿震動し満座の者を驚嘆せしめたと云ふ。

師長留ること四年で京に歸つたが、寵を受けてゐた里長横江氏の女は之を土器野送送り師長はその秘藏白菊の琵琶をかたみに與へたが、離別の悲しみに堪へず側の池に身を投じて果てた。此の池を琵琶池と稱し其池畔に墓を營んで之を弔うた。之を琵琶塚といふ。一説に琵琶島の文字は此の傳説から生れたと傳へられる。

西區東柵柵島町の清音寺は曹洞宗で師長が愛女横江氏の爲めに營んだものである。

横井也有屋敷跡 中區下前津町鳥屋横町

知雨亭と稱し又一名半掃菴とも云ふ。也有幽棲の地である(知雨亭記、知雨後記、七景記等の文章がある。)也有は元祿十五年九月名古屋に生れ、二十六歳の時家督を相続して祿千五百石を頂いて普請組寄合となつたが五十三歳の時致仕の後は前記に居を構へて文學に親んだ。天明三年八十二歳を以て此の地に歿した。墓所は海部郡八開村藤ヶ瀬西音寺に在る。

切支丹塚(榮國寺) 東本願寺別院ノ西方

切支丹塚は又千人塚とも稱す。東橋町榮國寺の墓地にある。寛文四年切支丹宗門の徒貳百餘人を刑した跡と云ふ。名號碑がある。

清涼山榮國寺は淨土宗西山派に屬する。此地も千本松原と云ふ刑場であつたが、築城の後、藩主光友刑場を土器野に移し其の跡に一字を建立し清涼庵と號した。貞享三年榮國寺と改められた。

裁斷橋址 市電熱田傳馬町停留所東南約三丁

熱田神宮から、東海道を東へ、八丁驛へ出る途中、もとの精進川に架けられた橋で、今は埋立てられ四本の欄干に昔の名残を留めてゐる。擬寶珠銘によると堀尾金助と言ふ十八歳の少年が天正十八年小田原陣で戦死したので、そ

の母が愛兒の菩提の爲に架けた橋である。

五 條 橋 市電景雲橋停留所南約一丁

圓頓寺筋堀川に架けられてゐる。もと清洲の五條川に架けられてあつたもので慶長遷府後此處に移され、今も青銅で作られた當時の欄干の擬寶珠がそのまゝ遺されてゐる。

一 里 塚

慶長六年徳川幕府が諸國街道を改修し三十六町を以て一里と定め一里毎に塚を築いてその上に榎を植えた。これが一里塚である。

1 笠寺町に在る。笠寺から街道を南東に數百米の所にあり、今も原型を存してゐて塚上に榎の老木がある。

2 西區江川町三丁目に在つたが明治初年廢毀された。

3 中區東田町圓教寺境内に一里塚の碑がある。

4 古渡町三丁目に在り。個人の宅地となつてゐる。

芭蕉句碑

名古屋に芭蕉の句碑が凡そ十三程ある。

1 三日月塚 東區大曾根町了義院の境内に在る。五條坊木兒が蕉翁の五十回忌に建てたものである。

有とあるたゞへにも似すみかの月

元祿の頃翁が名古屋に遊杖の時詠じたものと云ふ。

2 鳴塚 西區新道町洪藏寺の境内にある。一名刈跡塚と云ひ白梵庵の門下金剛連の建立で、句は一筆坊の書なり

と云ふ。

刈跡や早稻かたかたの鳴の聲

この句は芭蕉句集に「田中の法藏寺に遊びて」を題して載せられてゐる。法藏寺には芭蕉の畫像並木像が藏されてゐる。

3 鏡塚、宵闇塚 中區矢場町清淨寺内に在る。一筆坊鷗沙の建立である。

人も見ぬ春やかゞみのうらの梅

鏡塚の傍に宵闇塚がある。

盆過ぎて宵闇くらしむしの聲

尚清淨寺内には一筆坊鷗沙、也有、白梵庵の句碑がある。

4 栗稗塚 東區杉村町西杉、臨濟宗楞伽山解脱寺内に在る。

五青、尾光等に依つて文政五年建てられたものである。

粟稗に貧しくもあらず草の庵

5 時雨塚 中區東田町三丁目淨土宗護念山證誠寺内に在る。尾藩の書物方手代小澤さゝをの建立。

けふばかり人も年よれ初しぐれ

6 時雨塚、鴨塚 南區熱田新尾頭町の妙安寺の境内に在る。

時雨塚は遠江の門人某、鴨塚は熱田連中の建立。

北海に草鞋すてん笠しぐれ

海くれて鴨の聲ほのかに白し

7 蛙塚 中區門前町セツ寺内に在る。天明六丙年風左門人の建立。

古池や蛙飛びこむ水の音

8 歌徳塚 中區門前町寶生院内に在る。土朗門の俳人による建立。

いざさらば雪見にころぶ所まで

9 萩塚 南區古渡町法林山傳昌寺内に在る。明治三十七年醉夢等有志の建立。

ぬれてゆく人もをかしや雨の萩

10 春雨塚、千鳥塚 南區笠寺町笠覆寺境内に在る。

春雨塚は安永二癸巳十月知足末孫春屋蘭螺羅羅建とあり、句は芭蕉、桃青等が當寺に奉納の爲詠んだものである。

笠寺やもらぬ岩屋も春の雨

笠寺や夕日こぼる、晴しぐれ

千鳥塚は享保己酉冬丹以之恭建とあり鳴海に同一のものがある。

星崎の闇を見よとや啼千鳥

四、明治天皇御聖蹟

明治天皇御聖蹟として主なるものを挙げると、

1 名古屋城本丸(元離宮)

2 名古屋大本營(東本願寺別院) 東本願寺は明治二十三年三月愛知縣下行幸の際同月廿八日及三月三十一日より

3 四月四日迄大本營となつた。尙東本願寺參照

八丁駿御野立所 南區熱田東町齋新開

熱田町から鳴海に向ふ東海道筋で俗に八丁駿と稱する松並木の中にある。明治元年御東幸の際、九月廿七日農民收穫の實況を天覽あらせられた處である。大正二年徳川義親氏此の地を購入して覽礎碑を建て、永久に御聖徳を拜頌し奉ることとした。

五、偉人誕生地

頼朝の誕生地

熱田神宮の北方 市電旗屋町停留所北

源頼朝は母の生家なる熱田大宮司藤原季隆の邸で生れた。

その産湯の池といふのが熱田旗屋町の誓願寺境内にあり、頼朝を祀るささやかな白旗神社及碑が建てられてゐる。

(尙瑞穂町の龜井山龍泉寺の境内にも龜井水とて頼朝産湯に用ひたと云ふ井戸がある)

織田信長誕生地

織田信長は天文三年織田信秀の嫡子として那古野城(現名古屋城)に生れたと云はれてゐる。但し異説がある。

前田利家誕生地

南區荒子町神明社境内にその碑がある。利家は利昌の第四子で天文七年愛知郡荒子村に生れた。

六、古墳

白鳥陵 南區熱田白鳥町 熱田神宮の西北約四丁

丘陵の西へ傾斜せる上に西面して築かれた前方後圓型の古墳で日本武尊の御陵と云はれて居るが、史上では伊勢の能褒野、河内の古市、和泉の琴彈原の三陵を御治定になり此の陵は認められてゐない。昔は此の傍にある法持寺でお守してゐたが現在では熱田神宮で管理してゐる。

尾張のあつたなる白鳥御陵にまうて、

しきしまのやまごこひしみ白とりの

かけりいましゝあところこれ

本居宣長

斷夫山古墳 南區熱田西町字根山 白鳥陵の北方約三丁

前方後圓型の大古墳で宮寶媛命の御墓として知られ現に「宮寶媛命之墓」と云ふ標柱が建てられてゐる。古墳の大きさは前後の長さ一三〇米、前方の幅一一〇米、高さ一四米五あり、此の種の古墳としては縣下第一である。

八幡山古墳 中區御器所町北丸屋 鶴舞公園の東南

圓錐形の古墳で圓墳として代表的のもので昭和六年史蹟に指定された。元東方の半腹に八幡社といふ一小祠があつたが、十數年前御器所字本郷八幡社に合祀せられた。この北方の高等工業學校構内にも圓墳が二三残つてゐる。

七、墓所

平手政秀墓所(政秀寺) 市電矢場町停留所南

平手政秀は名古屋城北西志賀の人で織田信長の傳であつたが、信長の言行常規を逸して暴族が多かつたので身を以て之を諫め、天文二十二年、年六十二を以て自害した。信長大いに悔ひ政秀寺を建立して其の菩提を弔つた。今その墓が政秀寺(中區矢場町二ノ切)の墓地に在る。政秀寺はもと小牧山の南小木村にあり天正十三年清洲に移り、慶長十五年今の地に移つた。臨濟宗妙心寺派に屬する。

尙西區西志賀町志賀公園内に平手政秀宅址がある。

織田信長墓所(總見寺) 中區裏門前町一丁目

總見寺は天正の頃織田信雄其の父信長の爲に、伊勢國大島村にあつた安國寺を清洲に移して今の寺號に改め、慶長十六年今の地に移つたものである。

平岩親吉墓所(平田院) 市電平田町停留所下車南へ

親吉は三河の人で家康恩顧の臣で義直の傳である。犬山城に居り十萬石を食んで義直に代つて尾張藩の政務を見たが慶長十六年名古屋城二の丸に卒した。墓が平田院境内にある。

平田院は浄土宗鑑西派の寺院で親吉の建立したものである。初め高瀨山法藏寺といひ三河に在り、ついで甲府に移り、親吉犬山に移るに及んで本市に移り慶長十八年今の地に移建して平田院と改めた。

星野勘左衛門墓所(高岳院) 市電高岳院前停留所下車東へ

勘左衛門は幡豆郡横須賀村の人で弓術を以て秀でた。寛文二年京都三十三間堂にて射を試み、徹矢六千六百に及び九年徹矢七千餘を以て總一と稱する者に超えんと欲して、五月朔日より翌日の亭午まで徹矢八千而も尙餘力があり

時人稱して弓術の總一となした。墓は高岳院内にある。
高岳院は淨土宗西派の寺で慶長十三年家康の命で平岩親吉が高岳院殿の菩提の爲甲斐新府にあつた教安寺を濟州城外に移して高岳院と稱し慶長十六年現在の地に移つた。

片岡源五右衛門墓所(乾徳寺) 市電東田町停留所下車北へ

片岡源五右衛門 名は高房、尾張の藩士熊井重次郎の男で淺野長矩の臣片岡六右衛門の養子となり、側用人として薩三百石を食んだ。元禄十五年十二月大石良雄等と共に主の仇を報じ十六年二月名譽の切腹を遂げた。墓は乾徳寺の墓地にある。

雲龍山乾徳寺は曹洞宗の寺院で萬治二年成瀬正虎其分家成瀬伊豆守之成の菩提の爲に建立したものである。

田宮如雲墓所(徳林寺) 市電山口町停留所東へ一丁半

如雲は文化五年名古屋に生る。名は駕輝、如雲はその晩年の稱呼である。大塚三右衛門の第二子で田宮半兵衛の養嗣子となつた。人となり謙嚴忠直大義に通じ陽明學を究め、武道にも達して居り、吉田松蔭等四方の名士殆んど彼の門を叩かないものなく、水戸齊昭も深く彼を推奨してゐたと云ふ。藩主豊勝と水魚の關係にあり、豊勝の藩政改革、勤王事業は如雲の策に出づるもの大であつた。彼の活動五十年、其間職を轉ずる、三十一回、職を解かるること六回、幽閉の身となること三回、歿する歳六十四、實に多難な一生であつた。明治十八年從四位を贈られ、三十年其の孫鈴太郎に男爵を授けられた。如雲の墓は徳林寺にある。

龜松山徳林寺は淨土宗西山派の寺で往古は眞言宗であつたが中頃禪宗となり無住國師を開山とする。

井上志朗墓所(照運寺) 中區新榮町四丁目

志朗は町醫井上安濟の子で寛保二年、守山町に生れ、名は正春、通稱專庵と云つた。俳諧を曉合に學び、傍ら本居宣長に就いて國學を修め、又書、平曲を學んで共に妙境に入つた。當時尾張の俳諧は志朗を中心として頗る隆盛を極め、東西の俳士一度杖を曳けば必ず足を止めて修業した。志朗は文化九年五月七十一才を以て名古屋の自宅に歿した。墓は照運寺(曹洞宗)に在る。彼の句中に

ほうと啼く鶯遠し峯の松

たうくと瀧の落こむ茂かな

露に音あり誰住みなれて茶の煙

飄靡で鮫おさへて歳暮れぬ

八、公園

菖山公園 市バス新屋敷行津賀田町下車東約五丁

都市計畫第十八號公園(面積七萬三千餘坪、位置瑞穂町彌富町の内)の一部を瑞穂耕地整理組合に於て施設したもので、鼎ヶ池を中心とする水面公園で、風光頗る明媚である。施設面積水面を除き約一萬坪である。

田光公園 市バス井戸田行又ハ笠寺行田光公園前停留所下車東へ

都市計畫第十九號公園(面積二萬八千餘坪、瑞穂町の内)の一部を瑞穂耕地整理組合に於て施設したもので田光ヶ池を中心とする水面公園である。施設面積水面を除き約五千坪である。

志賀公園 西區西志賀町 市電淨心前停留所東北約二十五丁

都市計畫第十二號公園（面積約二萬三千九百坪、西區西志賀町字極越の全部）の一部を西志賀耕地整理組合に於て施設し昭和九年本市に寄附せられたもので、面積八千坪餘市北部唯一の公園である。園内に平手政秀の獨邸跡がある。昭和十年二月開園した。

道徳公園 南區豊田町 名鐵道徳驛西約一丁

都市計畫第二十四號公園（面積約二萬五千六百坪、南區豊田町の内）の一部を豊田土地區調整組合に於て施設したもので、野球場、テニスコート、角力場、兒童渡渉池、遊園地等の施設がある。

四、其の他諸案内

一、官公衙其の他

愛知縣廳 中區新榮町二丁目

縣會議事堂、愛知縣農會、愛知縣教育會等の建物と隣接し、附近には新榮警察署、消防署、縣立第一高女、愛知縣農工銀行、中區役所等がある。尙且下市廳舎の隣に新廳舎の建築工事中である。

名古屋驛 中區笹島町

現在の名古屋驛は明治十九年四月に設けられたもので、其後屢々改造擴張されたが、大正十三年改築計畫が決定され現在驛の西北約三丁程の處に新驛改築せられることとなり、目下鋭意工事中で、昭和十二年三月には新驛で營業開始の豫定である。

愛知縣商工館 西區南外堀町六丁目

敷地共總工費九十萬圓で、近代式鐵筋コンクリート五階建、昭和十一年四月三十日竣功した。縣下産業及當業者の相談役であり指導者である。

名古屋中央放送局 西區南外堀町一丁目

名古屋中央放送局は大正十四年一月設立許可せられ翌年七月本放送を開始した。JOCKと稱し、一般の教養及娛樂に貢献してゐる。同所に名古屋演奏所を有し、稀狭間に放送所を有する。

名古屋市廳舎 西區南外堀町六丁目

御大禮記念事業として建築費三百餘萬圓を以て昭和八年九月竣功したもので、地階共六階建、近世様式に日本趣味を加へたものである。

第三師團司令部 西區南外堀町六丁目

名古屋城廓内に歩兵第六聯隊、野砲兵第三聯隊、輜重兵第三聯隊、衛戍病院等の舎屋と共にある。

裁判所 東區主税町一丁目

市廳舎の東三丁程の處にあり、近代式煉瓦造の建物で、名古屋區裁判所、地方裁判所、控訴院が併置されてゐる。

名古屋國際假飛行場 名古屋港第十號地 名古屋の港西南約十丁

昭和九年六月名古屋國際航空協會が設立せられ、名古屋港第十號地に必要な設備を施し、同年十月より日本空輸會社の旅客機により旅客及郵便物の定期航空輸送を開始した。尙昭和十二年度には庄内川下流西突堤の中央部西側に總面積二十八萬坪を有する本邦中部日本の重要な航空路の寄港地ともなる大航空場が完成される。

中川運河

市の西南部を貫流する。延長八千米餘。大正十五年十月起工し昭和七年末に使用を開始した。名古屋港及名古屋貨物驛と相俟つて附近一帯の工業地域を培養する原動力である。

二、工場

本市は工業を基礎として發展して来た都市で、工場の種類及その数は頗る多く、見學すべき工場は可成り澤山あるが、紙面の都合上その一部を記載して參考に供する事とする。

一、紡織工業

東洋紡績株式會社工場 日本三大紡績會社の一つで、名古屋工場（中區正木町）、尾張工場（南區熱田尾頭町）、愛知工場（中區廣井町）、大曾根工場（東區上飯田町）の四つの工場が有り、綿糸紡績、絹糸紡績、紬糸等を製産してゐる。

愛知織物株式會社工場 東區千種町高見にあり、綿糸、三巾、全市、細綾、大綾、等を製産してゐる。

豊田紡績株式會社工場 西區榮生町にあり、綿紡績及綿布の製産をしてゐる。尙中區米野町に同社南工場があり、紡績、織布の製産を營んでゐる。

此の外名古屋紡績株式會社工場（南區八幡町）―株式會社服部商店熱田工場（南區熱田東町東起）全櫻田工場（南區櫻田）―株式會社近藤紡績所（南區呼続町字窪）―内外紡績株式會社（南區瑞穂町字五反田）―日清紡績株式會

社工場（南區豊田町）―帝國擔糸織物株式會社工場（西區上名古屋町）―東京モスリン紡績株式會社名古屋製絨工場（東區下飯田町）―日本毛織株式會社工場（中區岩塚町）等々此の種工場は實に枚擧に遑のない程澤山ある。

二、食料品工業

大日本麥酒株式會社名古屋工場 東區高松町にあり、アサヒ、サツボロ、エビス等の麥酒を製造し、廣く本邦各地の需用に應じてゐる。

日清製粉株式會社名古屋工場 西區則武町にある。

三共製菓株式會社工場 西區櫻木町にあり、ビスケット、洋菓子等を製造しその名は廣く知られてゐる。

三、化學工業

日本陶器株式會社工場 西區則武町にあり、日本の製陶界に於ける代表的工場として其の名は餘りにも有名である。

其の製品は輸出向のもの多く、輸出先は米國を始め、英國、印度、南洋方面である。

株式會社名古屋製陶所工場 東區東芳野町及千種町弦月、山田町等に工場が有り、内地向の歐風磁器の製造を主として行つてゐる。

合名會社安藤七寶店 中區矢場町五ノ切松坂屋前にあり、本市の特産物である美術品七寶類の製作販賣をなしてゐる。

此の外著名な工場には日本磚子株式會社工場（南區堀田通二丁目）―大日本人造肥料株式會社名古屋工場（南區西築地四號地）―東海曹達株式會社名古屋工場（南區西築地四號地）―小野田セメント製造株式會社愛知支社工場（南區熱田東町）―豊田セメント株式會社名古屋工場（南區大江町）等がある。

四、機械器具工業

三菱電機株式会社名古屋製作所 矢田町十八丁目にあり、小形電動機其の他各種の電熱機の製作に従事してゐる。尙同製作所の西南隅にある電氣の家はあらゆる最新の家庭用電氣施設の完備した好見本として一度此處を訪れた者は誰しも一驚する所である。

豊田式織機株式会社工場 織機界の雄故豊田佐吉氏が其の發明した織機を製作する爲に經營を始め今日に至つたもので現在西區島崎町及市外新川町に工場が有る。

愛知時計電機製造株式会社工場 南區千代田船方及同區堀田通三丁目にあり、主に飛行機及兵器の製造に力を注いでゐる日本車輛製造株式会社工場 南區熱田東町にあり、本邦屈指の車輛工場で、其の製品である鐵道用機關車其の他各種鐵道用車輛、電車、自動車は廣大なる販路を有してゐる。

株式会社岡本自動車製作所 中區東郊通七丁目にある。ノリツ號は本工場の製作品で廣く販賣され、此種工業界に於ては本邦有数の工場である。

三菱重工業株式会社名古屋航空機製作所 南區大江町にあり、内燃機及び飛行機を製作し、我が國重工業界に多大の貢獻をなしてゐる。

此の外著名な工場に明治時計製造合資会社工場（南區明治町）―尾張時計株式会社工場（東區葵町）―株式會社大隅鐵工所工場（東區布池町）等がある。

五、其の他の工業

此の外東邦瓦斯株式会社工場（中等御器所町高橋手）―東邦電力株式会社名古屋發電所（南區大江町）等大規模の

ものが數多ある。

三、百貨店

市内百貨店には左の數店がある。此の中松坂屋は東京（上野、銀座）、大阪、静岡に支店、京都に仕入店を有する本邦有数の百貨店である。

松坂屋 中區南大津町
十一屋 〃 榮 町
榮屋 〃
享榮 〃 大池町

四、プール、ゴルフ・リンクス

プー ル

市内に市営プールが四ヶ所ある。この外尙新世界、共樂園、花壇、七本松等のプールがある。

- 1 振南プール 東區振南町 〔市營バス、プール前下車〕市電及民營バス 登王山線池下又ハ登王山終點下車北約十丁
- 2 豊田プール 南區豊田町 〔市營及民營バス 豊田プール下車〕市電 内田橋下車南方約七丁
- 3 兒玉プール 西區兒玉町 市電、市營、民營バス天神山下車西方約六丁

4 向田ブール 中區向田町 市電及バス東別院前下車東南約四丁
 ゴルフ・リンクス

ゴルフ場は八事山の東方約一里の所、猪高村字猪子石原にある「和合ゴルフ・リンクス」が設備最も大で、此の外
 大自村字植田に「植田ゴルフ場」及市内南區村土町に萩山公園に接して「萩山ゴルフ・リンクス」がある。

五、劇場と映畫館

名古屋は昔から藝所として知られ日本舞踊には西川流を生み、又「藝の關所」として江戸、大阪の大名題連も一度
 は必ず此の關所を辿らねばならぬものとせられてゐた。

劇 場	御園座	中區南園町	歌舞伎座	中區岩井町通
	名寶劇場	中區廣小路通	帝國座	中區裏門前町
	中座	中區南伏見町		
映 画 館	松竹座	中區末廣町	名寶劇場	中區廣小路通
	中京劇場	西區桶屋町	八重垣劇場	西區八重垣町
	名古屋劇場	中區裏門前町	千歳劇場	中區南桑名町

世界館 中區門前町
 常盤館 中區裏門前町
 港座 中區門前町

市内の劇場、映畫館は總數五十餘に上り前記の外にも著名なものが相當多い。

六、飲食店

名古屋料理の自慢は「自然の味」を出さうとする鹽加減にある。肉類では鶏料理が名物となつてゐて、そのうまい
 事と安價な事は他の追随を許さない。大衆的なものとして尙「うどん」や「きしめん」がある。

和洋飲食店、カフェー、喫茶店等の中で有名なのは次の通り——此の外にも相當名のある店は澤山あるが紙面の
 都合上割愛することにする。

和 式 料 亭	河文	西區小田原町	本局二〇三〇
	御納屋	東區西魚町	本局二二〇〇
	向陽館	東區田代町叢池	東局五〇九〇
	寸樂	中區御器所町小針	南局 八八五
	五月月	中區入江町	本局 八五
	得月樓	中區納屋町	西局三五〇〇

八千久 中區門前町大須境内 本局 八五二
 八勝館 中區廣路町(八事) 本局 一五〇六
 鯛めし屋吞兵衛 中區榮町 東局 三〇七
 其他鳥勝、井善、末廣、河吉、雪月花、橋惣、東子し、八重垣、小春亭等

西洋料理店

名古屋ホテル 西區三藏町一ノ八 本局 一一一二
 萬平ホテル 東區東新町七 東局 七四七〇
 借樂亭 東區富澤町四ノ六 東局 七〇一二
 精養軒 中區大池町四 中局 三〇六六
 ホテル食堂 中區新榮町中區役所前 東局 三六三七
 改良亭 中區住吉町一ノ八 中局 二七一
 アラスカ 中區廣小路通二ノ一 朝日會館内
 中央亭 中區南大津町一ノ一〇 中局 四〇四
 富士アイス 中區小林町四 中局 一七四一
 支那料理店 東區富澤町一ノ一〇 東局 四六七八
 芳蘭亭

日清莊 中區八百屋町日清ビル 本局 二八七八
 福壽園 中區南大津町福壽ビル地下室 中局 四四一四
 榮香林 西區御幸本町商工館地下室 東局 二五七二

カフェー

コロンビヤ、ヴィナス、モナコ、コロンボ、サロン銀座、馬車屋、イーグル、ナガタ 廣小路附近
 モンパリ、ポストン、本麗人座、大須會館 大須附近
 黒猫 鶴舞公園附近

ピヤホール

直營キリン、キリン園、アサヒピヤホール 廣小路通

喫茶店

森永、明治、シキシマパン、不二屋、松川屋、ライオン、プレイガイド、グリル・スコット、 廣小路附近
 ジャボン 大津町通
 大一ホテル、ツバサ、富士アイス 大須附近
 資生堂、シキシマパン、香窓園 大須附近
 スズヤ、資生堂、オリソビツク 鶴舞公園附近

七、旅 館

一般に名古屋の旅館は近代的な明朗性よりは、寧ろそのクラシカルな落着きと氣安さとの故に喜ばれてゐる。「宿屋」と云ふ言葉それがほんとにピッタリと来る。勿論本格的な洋式ホテルも小數ながら存在し、殊に本年十二月上旬から營業が開始せられる観光ホテルなどは、我が國一流の洋式ホテルである。一流旅館として自他共に許してゐるものに支那忠本店、丸文旅館、シナ忠旅館、清駒、八勝館等があり、洋式ホテルには前記観光ホテルの他萬平ホテル、大一ホテル、名古屋ホテル等が有名である。市内の主なる旅館は大體次の通りであるが、勿論他にも相當いいのが多數ある。

旅館名	所在地	最寄電停	宿泊料	電話番号	備考
名古屋 観光ホテル	東區富澤町三丁目	廣小路本町	七、〇〇 五、五〇	東 四八〇	七十二室
大一ホテル	中區南大津町三丁目	松坂屋前	五、五〇 四、〇〇	中 三二一	三十室
萬平ホテル	東區東新町	東新町	四、五〇以上 (朝食)	中 七〇〇	四十四室
大野屋支店	中區南桑名町一丁目	南桑名町	六、〇〇 五、〇〇	本 二五二八	二十室
丸文	上園町二丁目	外堀町三丁目	七、〇〇 五、五〇	本 〇五二	十二室
名古屋ホテル	〃 繁三ツ藏町	納屋橋	一〇、〇〇 三、〇〇	本 一一三	二十二室
大須ホテル	中區若松町	岩井町	五、〇〇 四、〇〇	本 〇六七 一六三八	四十八室
清駒支店	名古屋驛前	名古屋驛	四、五〇	西 二五〇	二十五室

別館	所在地	柳橋	宿泊料	電話番号	備考
八勝館	中區廣路町	八事興正寺前	三、〇〇(室代)外二 席料二、〇〇	東 五〇〇	十五室
シナ忠旅館	名古屋驛前	名古屋驛	四、五〇	西 二五〇	三十四室
小松屋本店	中區廣小路通二丁目	納屋橋	三、五〇 三、〇〇	本 〇二〇〇	二十八室
小西	東區富澤町四丁目	廣小路本町	三、五〇 三、〇〇	東 四九二	十五室
榮太樓	〃 二丁目	〃	三、〇〇 三、〇〇	東 一八〇六	八室
大松	〃 三丁目	〃	三、五〇 三、〇〇	東 一八五三	二十六室
かざ宗本店	中區住吉町一丁目	〃	三、五〇 三、〇〇	中 〇二五〇	七室
水明館	〃	〃	三、五〇 三、〇〇	中 一六五	十二室
葛茂	〃 二丁目	〃	三、五〇 三、〇〇	中 一四二	十五室
丸仙	東區蒲焼町一丁目	〃	三、〇〇 三、〇〇	本 〇九九〇	二十室
ふく富	中區廣小路通三丁目	〃	三、五〇 三、〇〇	本 二九二	十三室
蓬萊館本店	〃 新柳町五丁目	南園町	四、〇〇 三、五〇	本 三七八七	十六室
辨天閣	名古屋驛前	名古屋驛	四、〇〇	西 二八九〇	十七室
勢州館	〃	〃	四、〇〇	西 二八三	三十二室
名古屋館	〃	〃	三、五〇	西 〇〇五九	十七室

舞鶴屋	津の國屋	小松屋	朝日館	米屋	本町ホテ	澤樂	木會館	福六支店	武藏屋	松川屋	扇屋	長野館	俵屋	角八屋	松葉屋
〃	中區住吉町二丁目	〃	名古屋驛北へ一丁目	中區門前町	西區御幸本町四丁目	東區針屋町二丁目	〃	久屋町八丁目	〃	小市場町四丁目	名古屋驛前	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	名古屋驛	門前町	本町御門	廣小路本町	南武平町	榮町	名古屋驛	柳橋	〃	〃	名古屋驛	〃	〃
二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	三、五〇〇	二、五〇〇	三、五〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	三、〇〇〇	二、五〇〇	三、〇〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇
東二六六一	中〇三〇〇	中一六六六	西一八九	本二七四七	本一七八九	東五八〇三	東一九八九	東一六〇四	西二〇二四	西二九七一	西二七四一	西一四一六	西二五九	西二九六六	西三七七七
十室	八室	十室	十室	二十二室	十八室	七室	十二室	八室	十五室	十三室	十七室	十二室	二十二室	八室	二十室

五月支店	中藤	錢屋	さわか	福六本店	三藤	龍名館	大正館	萬茂	新花月	山新	長廣館	井澤屋	井筒藤	海月	扇屋
〃	東區東魚町一丁目	中區南伏見町	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	杉ノ町	南園町	廣小路本町	南桑名町	〃	泥江町	岩井町	本町御門	南武平町	門前町	廣小路本町	〃	〃	〃	〃
三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
西〇五五	東二五三	本〇〇二四	本一九七〇	本〇五三	本〇三五六	西二二七	本三二七九	本一八六	本一八六	中〇四六五	東一〇六〇	東一四七〇	東一四七〇	東一六八九	東一七〇八
十七室	二十四室	十三室	十二室	十一室	十一室	十三室	十三室	十三室	十七室	十一室	十三室	十四室	十四室	十二室	十五室

吉田屋	名古屋驛前	名古屋驛	三、〇〇〇	西二七三六	十四室
丸八旅館	〃	〃	三、〇〇〇	西二五七〇	二十三室
舞鶴館	〃	〃	三、〇〇〇	西三三六六	八室
富士見館	名古屋驛北へ一丁目	〃	二、五〇〇	西五〇九三 西二四〇〇	八室
原田屋	〃	〃	三、〇〇〇	西〇二六四	十五室
丸八支店	〃	〃	二、五〇〇	西三三七一	十一室
美濃屋	中區日ノ出町	岩井町	三、〇〇〇	本二四八九	十四室
鶴舞館	〃	公園前	三、〇〇〇	中三八八〇	十八室
仙鶴	〃若松町	〃	三、〇〇〇	本二四八一	十一室

八、観光案内所

昭和二年ジャパンツーリストビュローの案内所が廣小路通に設置されたのを初めとして、昭和五年には名古屋観光協회가設立され、近くは名古屋市にも観光係を置き博覽會觀光部と共に観光地の案内觀客の誘致斡旋等に力を注ぐことになった。

名古屋觀光協會 名古屋商工會議所内 電中一一七五 (名古屋驛構内、築港海岸通に案内所がある)
鐵道案内所 名古屋驛構内 西〇〇〇一

名古屋市産業部觀光係 名古屋市役所内 東七九〇〇 (名古屋驛構内に案内所がある)
汎太平洋平和博覽會觀光部 (名古屋驛、熱田驛、千種驛、博覽會場内に案内所設置の計畫)
名鐵電車案内所 名鐵柳橋驛 西二六三一
名鐵電車案内所 中區大津町千代田ビル 中三六九〇
名鐵電車案内所 名鐵神宮前驛 南一四八〇
ジャパンツーリストビュロー 中區榮町一丁目 本一四八〇
名古屋廣小路案内所 中區南大津町松坂屋内 中〇〇二二
同 中區南大津町千代田ビル内 中三八二七
大阪商船船客案内所

九、土産品

菓子類 鯨おこし—ういろ—納屋橋まんじゆう—文化まんじゆう—しやちほこ (元びん糖)—野菜せんべい—城丸せんべい—鯨形せんべい—金鯨あられ—大根あめ
漬物類 守口漬—奈良漬—からし漬—福神漬
干物類 切ぼし大根—魚類せんべい—はぜ子山吹漬
硬質陶器 灰皿—額皿—鯨形煙草入
陶器 菓子皿



- 一 貫 張 菓子器類
- しほり類 風呂敷—手ぬぐい—衣類
- 七 寶 焼 花瓶類其他
- 木製玩具類 木馬、自動車類

式七 道 品

徳島県産品
 一、菓子器類
 二、風呂敷類
 三、手ぬぐい類
 四、衣類
 五、花瓶類
 六、木製玩具類
 七、木馬類
 八、自動車類
 九、その他

市内観光案内図

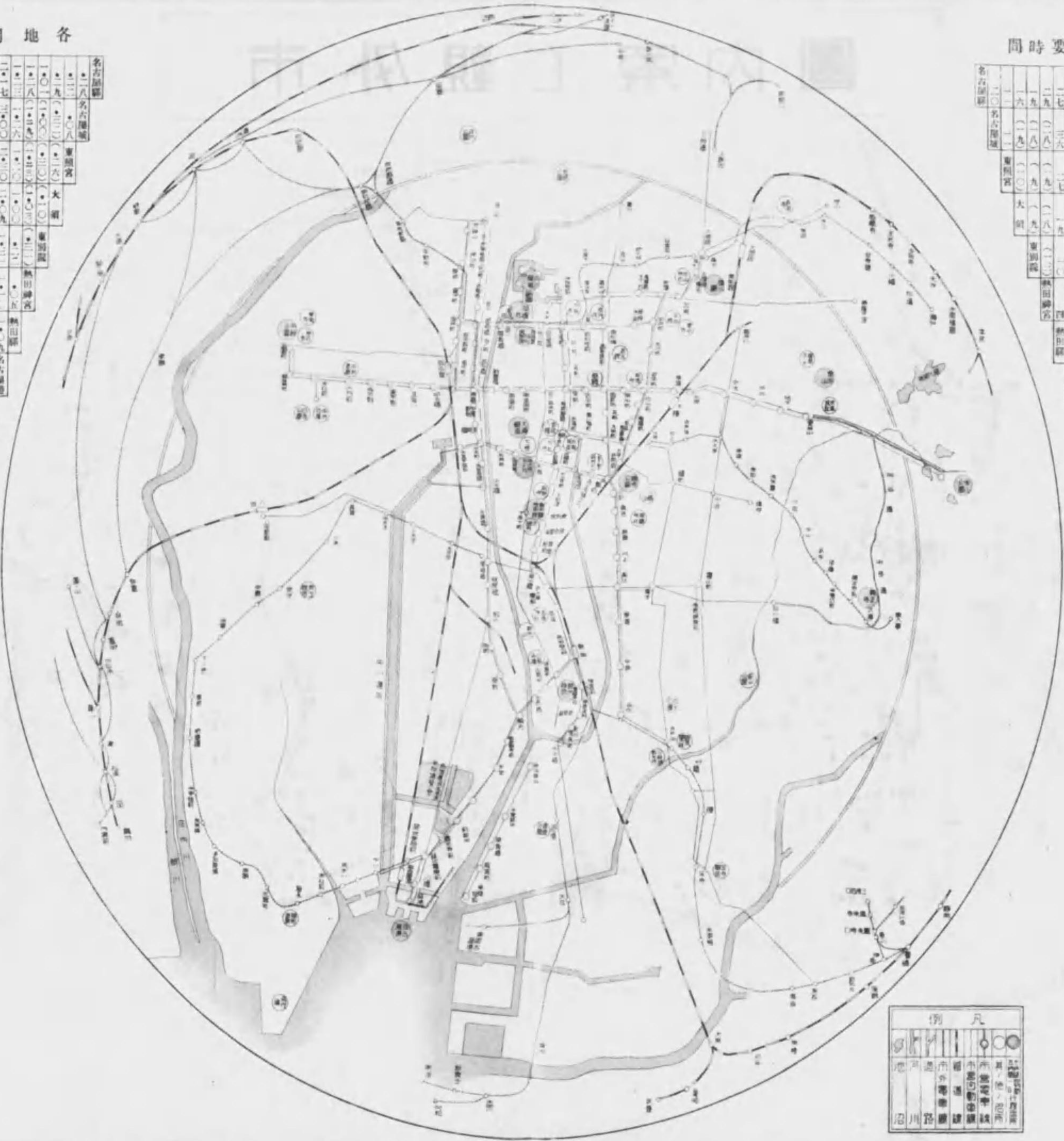
各所間所要時間

名称	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50										
1	0	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100	105	110	115	120	125	130	135	140	145	150	155	160	165	170	175	180	185	190	195	200	205	210	215	220	225	230	235	240	245	250	255	260	265	270	275	280	285	290	295	300

単位分・括弧ノ数字ハバスニヨル場合

例凡

○	市庁舎
●	市役所
○	公園
○	神社
○	寺
○	学校
○	観音堂
○	塔
○	橋
○	川
○	池
○	山
○	道路
○	鉄道
○	バス
○	停留所
○	駅
○	埠頭
○	船
○	汽船
○	飛行機
○	自動車
○	タクシー
○	自転車
○	歩道
○	水路
○	境界
○	不明



各地間距離

名称	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50										
1	0	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100	105	110	115	120	125	130	135	140	145	150	155	160	165	170	175	180	185	190	195	200	205	210	215	220	225	230	235	240	245	250	255	260	265	270	275	280	285	290	295	300

例 一・二八トアルハ一里十八町ノ略



市外觀光案内圖

例	凡
國有鐵道	縣界
市外觀光	自動車路



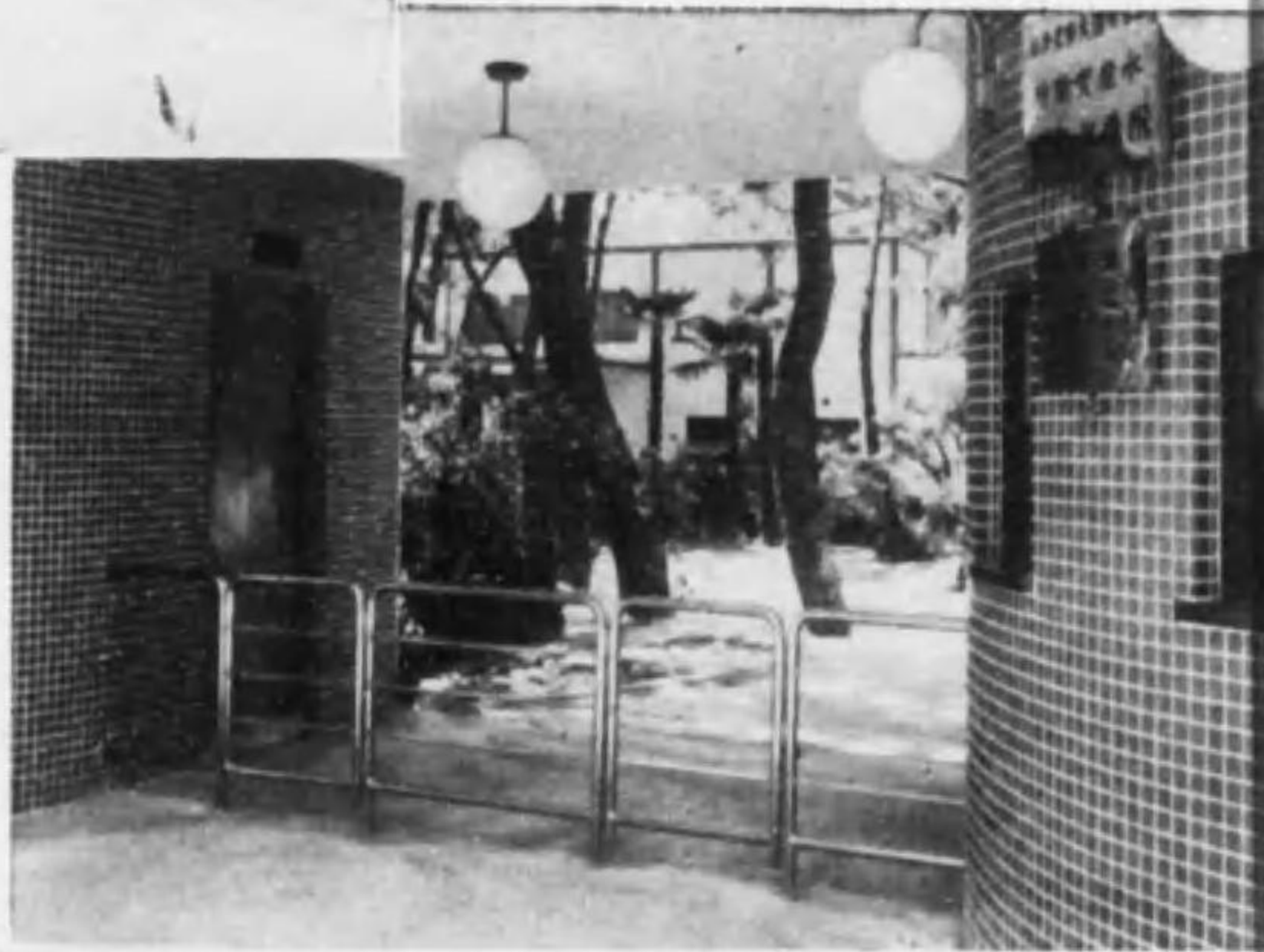
新開子湯水浴場

内
海
海
岸

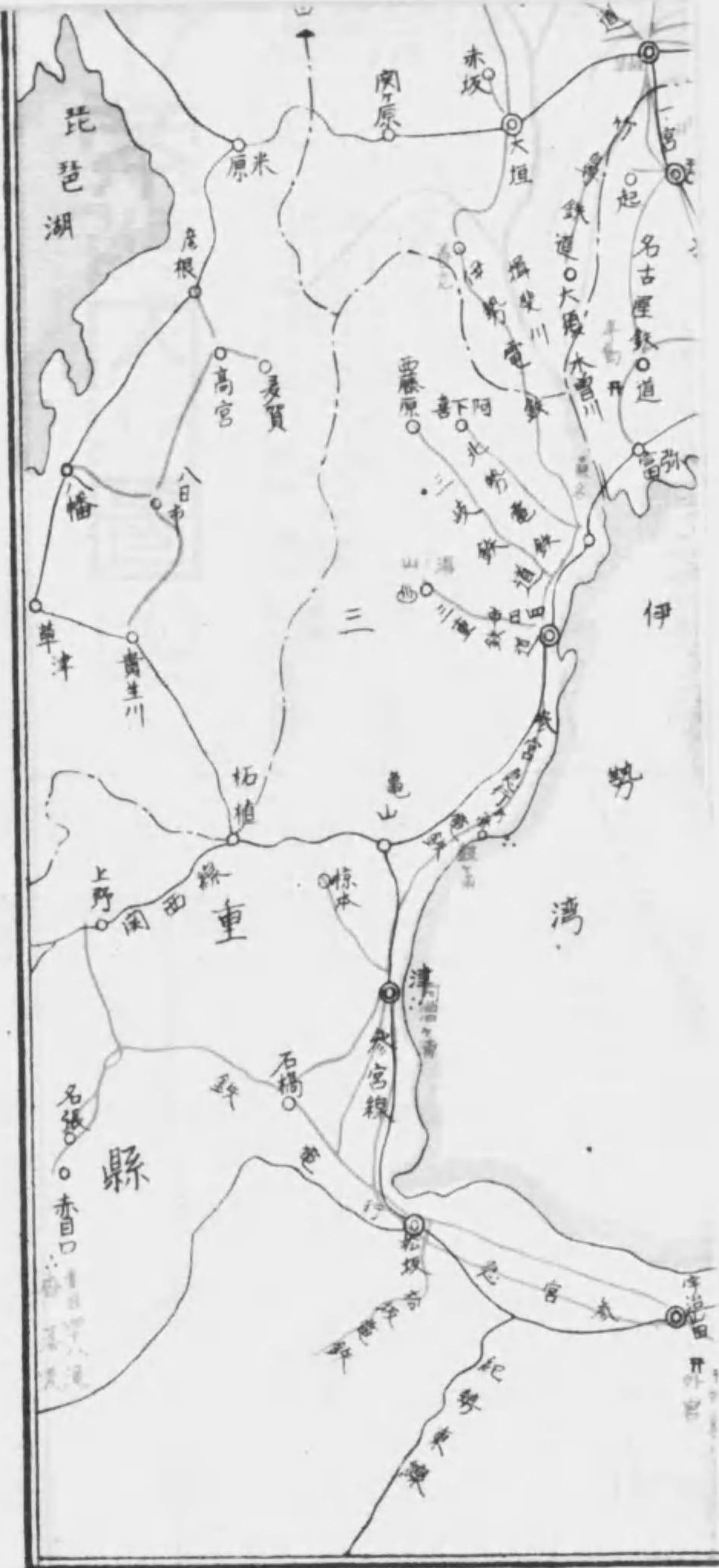
(間野) 墓之公朝義源



新舞子水族館



新舞子海水浴場



市外の部

一、知多半島巡り

全長十里餘長く伊勢海に突出せる紅指形の知多は全島海邊美と島嶼美に富む。近年快適なる自動車道路完成し都座を避けて一日此處に清遊を試むる者日を追ふて盛である。尙新四國八十八ヶ所の札所の靈場がある。

聚樂園 名古屋神宮前（名鐵）——聚樂園 十五分 二十二錢

園は廣さ一萬坪海面より約百尺の崖上に在り、伊勢灣を一眸に收め遠く伊勢の連山を睥睨絶佳の地である。上野山に露座する大佛は奈良の大佛より一丈高く相貌又頗る慈顔の逸作である。附近の加家には享保の大教育家細井平洲の遺蹟がある。

彌勒寺 神宮前—太田川 二十分 三十錢 驛より約四丁

寺は日本結縁唯一の御寶塔靈場て新四國第八十三番ノ札所に當り毎月八日の御寶塔縁日はを參詣者で賑ふ。

新舞子 神宮前—新舞子 三十七分 五十四錢

白砂青松、海邊美の極致をなし海水浴場、遊園地としての施設も完備し來遊する者特に多い。

新舞子水族館

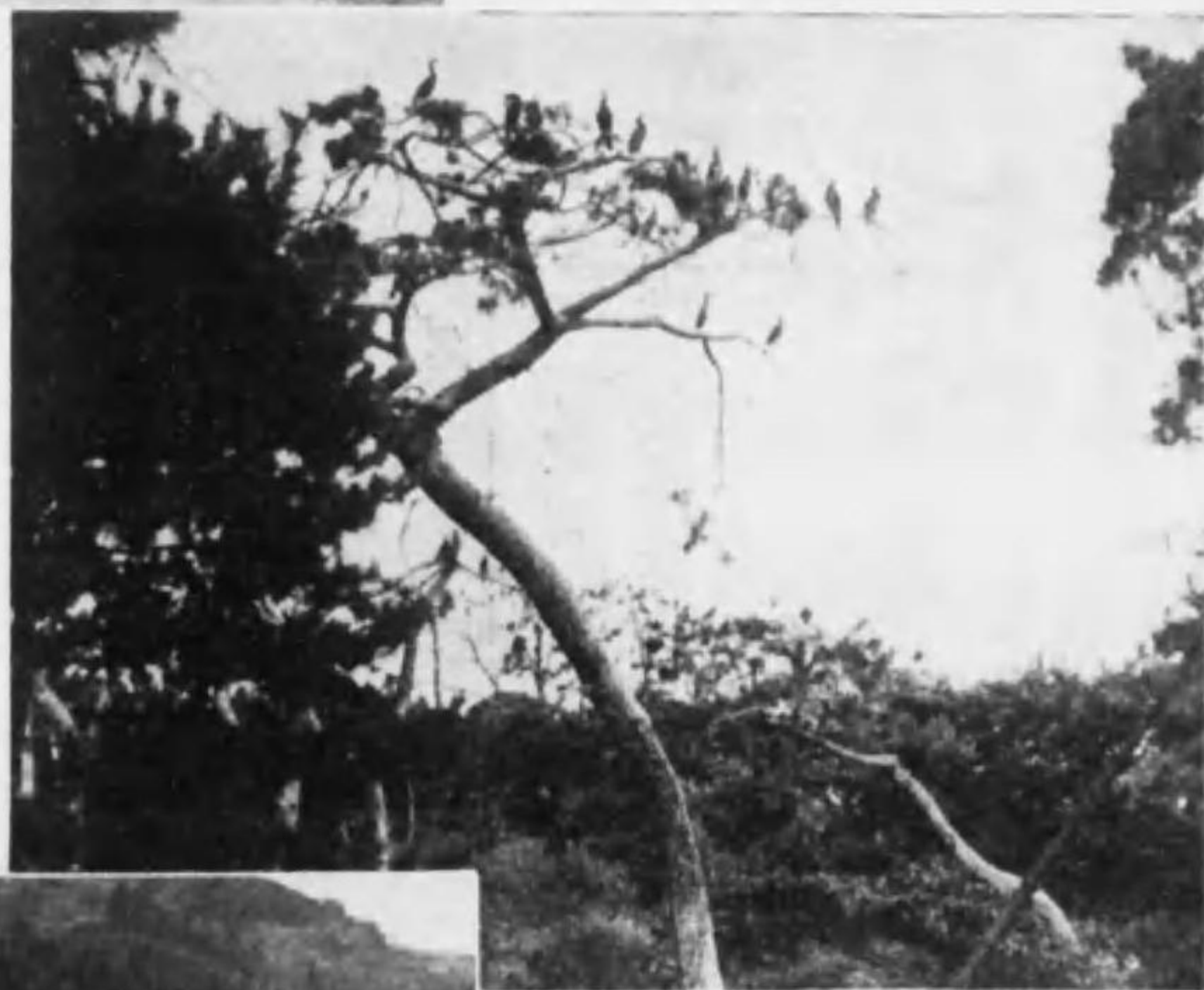
常館は東京帝大に附屬し凡ゆる科學の粹ミ最高水準の設備を得た世界屈指の大水族館である。近代式鐵筋コンクリート造の白聖の殿堂は青松白砂に映え眞に近代龍宮を彫彫たらしめる。



桶狭間古戰場
今川義元の墓



豊川稲荷



鶴の山



香嵐溪

魚槽は、鹹水魚槽、淡水魚槽、發火魚槽等を備へ世界最初の循環式流水法を探り又電熱線水装置を有す。

開館時間 一月—三月 午前九時—午後四時
四月—九月 午前八時—午後六時
十月—十二月 午前九時—午後四時

開館時間 一月—三月 午前九時—午後四時
四月—九月 午前八時—午後六時
十月—十二月 午前九時—午後四時

常滑 神宮前—常滑 四十六分 七十錢

常滑焼の生産地として有名である。今から千八百年の昔始めてこの地に陶器を焼き、時代の變遷に伴ひ盛衰はあつたが天保年間鯉江方壽が窯を改築し、弘化四年下水土管の製作を創意して次第に隆盛となり、寛政年間村上白鷗工藝品として一生面を拓いた。

鶺鴒の山 (知多郡小鈴豆村上野間) 神宮前—常滑—上野間(常滑よりバス五十錢)

天保初年以來の鶺鴒の生息地である。數千羽の鶺鴒は此處を囀として海に、池に餌を求めて遊飛し毎年二、三千羽の雛が蕃殖する。昭和九年に天然記念物に指定せられた。

野間 神宮前—武豊 (三十四分 五十四錢)—バス(六十錢)
常滑

理想的海水浴場であり又源義朝が野間の庄司長田忠致の館で長田父子のため浴室に刺され「我に一本の木太刀さへあれば」と悲憤の一言を残して劇的最後を遂げたところで大師堂寺(一名野間大坊と云ふ)にあるその墓前には今岡木太刀が山と積まれて往年の悼まじさを懐ひ起さしめる。

内海 神宮前—河和(四十七分 七十六錢)—バス(二十分 二十八錢)

南知多隨一の海水浴場で世界的サンスキー場や磯ヶ浦等の勝地がある。此處より遙か遠處の中に富士の秀嶺を窺む事が出来又附近の性海寺は櫻と紅葉で有名である。

旅館 内海館、風月、南洲ホテル、大徳樓、丁字屋、柏屋等(二圓五十錢程度)

師崎 名古屋驛(省線)—武豊—バス 一圓三十六錢
神宮前—河和—バス 四十八錢

半島の最南端に位し日間賀、篠島をめぐる群島嶺の如く紺碧の海に浮び、指呼の間に點在するさまは限りない絶景である。海水浴場としても有名である。町の南方に突出せる鬱蒼たる丘陵には羽豆神社を祀り、境内の潤葉樹は天然記念物に指定されてゐる。

旅館 十一屋、みどりや、木村屋、中川屋、新喜樂、みはらしや、師崎館等宿泊料一圓—三圓
篠島 師崎より汽船にて二十五錢(片道)

師崎の南方一里半の海上にあり附近には木島、元島、佐久島、野島等一帶に島嶼散在し東海の松島の稱がある。往古後村上天皇、東宮にあらせられた時延元三年八月伊勢から海路東國に向はせられ途中颯風のため北畠顯信に奉ぜられてこの島に御上陸翌年三月まで在島せられた。島にはその御遺蹟の「帝の井」を創め戦國時代の英雄俊傑或は雌伏し、或は據り、或は配流された史蹟に富み終日懐古の情にひたる事が出来る。

旅館 古城館、長門屋本支店、岐阜屋、平野屋、竹屋、福島屋、大丸屋、富士見屋等宿泊料 二圓—三圓

龜崎 名古屋驛—龜崎 四十八分 四十七錢
熱田驛—龜崎 三十九錢

神倭磐余彦尊を奉祀する神前神社は神武天皇の御遺蹟と云はれこの例祭、潮干祭は、舊曆三月十五、六日の兩日に行はれ、諏訪の人立川和四郎岸駒等の古の名匠の妙技を蒐めた美しい五輪の山車を海濱へ曳上げ曳下す態の勇壯

なので有名である。海岸一帯は汐干狩、海水浴に適し、港よりの月の眺は又格別である。町の東端には新四國八十八ヶ所の一霊場たる海洲院がある。
名物 銘酒「敷島」

二、名古屋鐵道沿線東部方面

桶狭間古戰場 (知多郡有松町) 神宮前—有松 二十分 二十三錢

三百餘年の昔永祿三年織田信長が雷雨に乗じて夜襲を試み今川義元を滅した所である。驛の西南約一丁丘陵連互せる間に今は只苔蒸した古碑一基が老松一樹の傍に淋しく遺つてゐる。西方の丘陵にある高徳院は義元の靈を弔ひ、新四國番外札所として參詣する者が多い。

三河三弘法 神宮前—新知立 特急二十一分 四十七錢

弘仁十三年弘法大師東國巡錫の途次此の地に駐錫、暫にして大師告別せらるゝに當り大衆仰慕し永く留まられん事を請つてやまず、茲に於て大師は一本の赤目椗に、過去、現在、未來の自像を彫刻して「之即我也」とて殘し去られた。三河三弘法は即ち之を安置したもので第一番を遍照院(驛から六丁)。第二番を西福寺(驛前)。第三番を密藏院(驛から六丁)と稱し善男善女の參詣者絡繹たるものがある。御命日五月十一日

豊川 稻荷 名古屋驛—豊橋(一時間四十分 一圓十四錢) 豊橋(豊川鐵道)—豊川(十六錢)
神宮前—豊川(直通急行あり) 一時間十六分 一圓二十三錢

世に豊川稻荷と稱せられる吒枳尼眞天は、曹洞宗の巨刹妙嚴寺の境内にあり、同寺の鎮守の善神である。妙嚴寺は

東海義易禪師の開創になり(約五百年前)豊川吒枳尼眞天も之の時奉祀した。

今川義元、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康等の名將傑士の尊信篤く古來出世開運の神として伏見稻荷と並び崇められ參詣する者日夜踵を接するの賑ひである。

本堂の壯麗輪奐の美と林泉造園の高雅とは又以て有名である。春爛漫たるとき櫻の馬場の櫻櫻は又絶好の行樂である。

豊川吒枳尼眞天の大祭

第一大祭 舊曆初午

第三大祭 十月廿一、二日

第二臨時大祭 四月廿一、二日

第四大祭 十二月廿一、二日

香 嵐 溪 神宮前—新知立—西中金驛(三河鐵道)—バス 二時間 一圓五十錢

巴川の清流に臨み妻戀ふ河鹿の聲も涼しく、紅葉の名所として又有名で紅彩溪流にだけ情趣一段と深いものがある。附近には南朝の忠臣足助重範を祀る足助神社や森林公園眞弓山城址などがある。

長篠古城址 神宮前—豊川—長篠(豊川鐵道) 驛より三丁 一圓五十六錢

城は永正五年今川氏親の築城になる。戦國時代徳川家康に屬したる奥平信昌居城し天正三年武田、織田、徳川三氏決戦の地にして奥平信昌の忠臣鳥居強右衛門の墓は同村新昌寺にあり、馬場美濃守の古墳も附近にある。

三、東海道沿線

安 城 名古屋驛—安城 四十四分 五十二錢

碧海郡安城一帯の農業の合理的に進歩せること本邦無比で日本丁抹の稱がある。
 蔬菜、果樹等農産物の産出豊しく全国よりの參觀者が多い。

岡崎 市 名古屋驛—岡崎 五十三分 六十四鐘

市は人口七萬七千。岡崎城は本多氏の居城であつて、徳川家康の孤々の聲を上げた所である。舊城址は岡崎公園となり懐古的趣味と近代的設備とが理想的に工夫を凝されてゐて管生川の清流に臨んで一入情趣深く春の櫻、秋の紅葉は有名である。公園には徳川家康産湯の井戸、縣社龍城神社、舊天守跡がある。

又附近には古刹是字寺、伊賀八幡宮（徳川氏累代の祈願所にして家康公の高祖父松平親忠の勸請したる社、境内の建造物は多く國寶に指定せられてゐる）大樹寺（徳川家康公の高祖松平親忠の建立したもので徳川家累代の菩提寺である。書院の壁畫襖並に杉戸は冷泉爲恭の筆になり境内の多寶塔は特別保護建造物である。三河鐵道大樹寺より西二丁岡崎より十二分七鐘）等がある。

名物と土産物 菓子 きさらぎ、安里雪、龍城燒、五萬石 食料品、八丁味噌

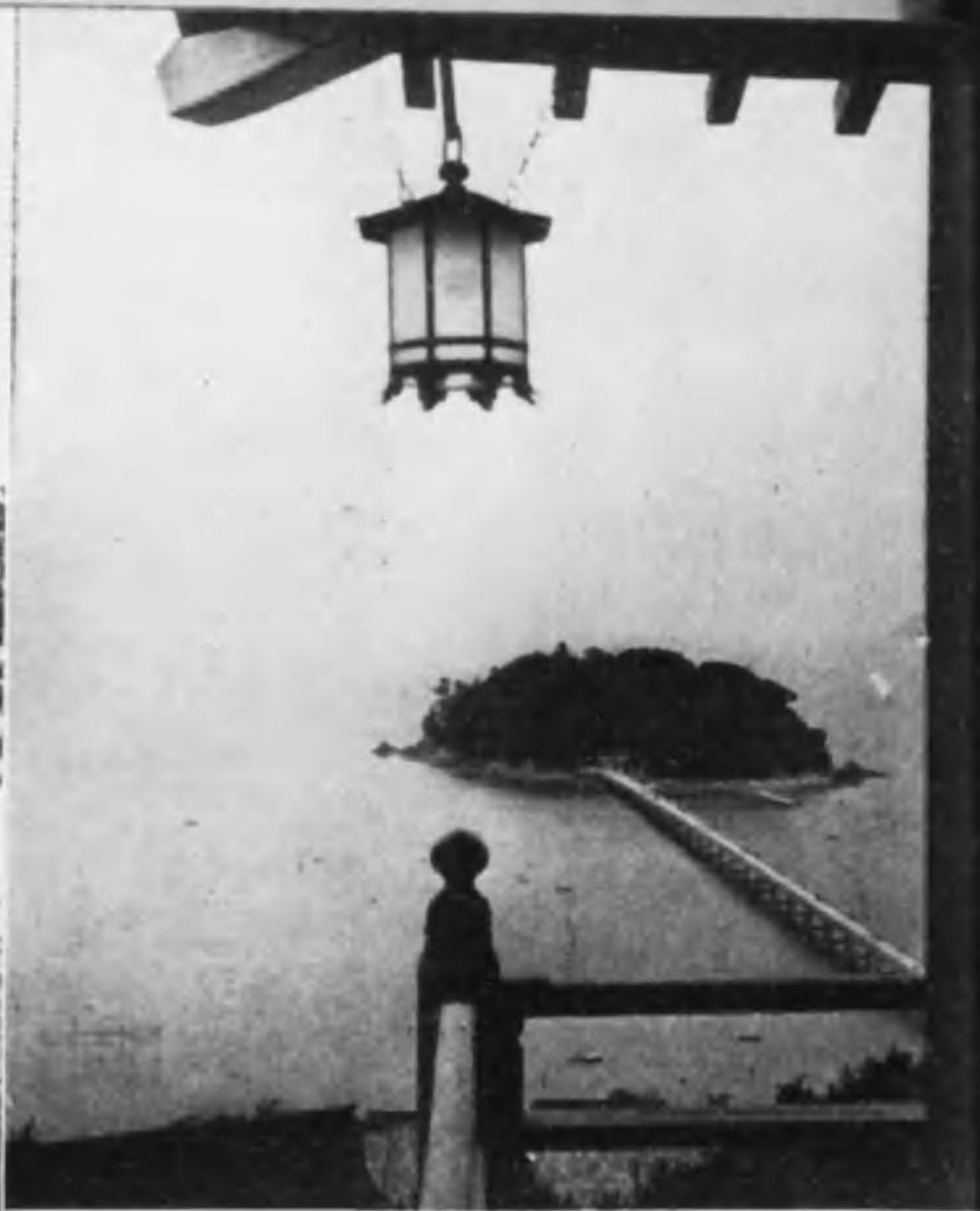
陶器 葵 燒 玩具 運鼓の竹細工

蒲郡 名古屋驛—蒲郡 驛より三丁 一時間二十分 八十八鐘

渥美灣に面し波靜かに大島竹島小島の翠巒夢の如く浮ぶ其の眺望殊に勝れ國際的觀光地として東海隨一の清遊地である。夏季は海水浴場として、冬は避寒地として知られて居る。

旅館 蒲郡觀光ホテル（洋式）、常盤館、建碧館、海月樓等あり宏壯なる建築と設備の完備した點で特に其の名を全國に知られてゐる。

名物 あさり、海鼠腸

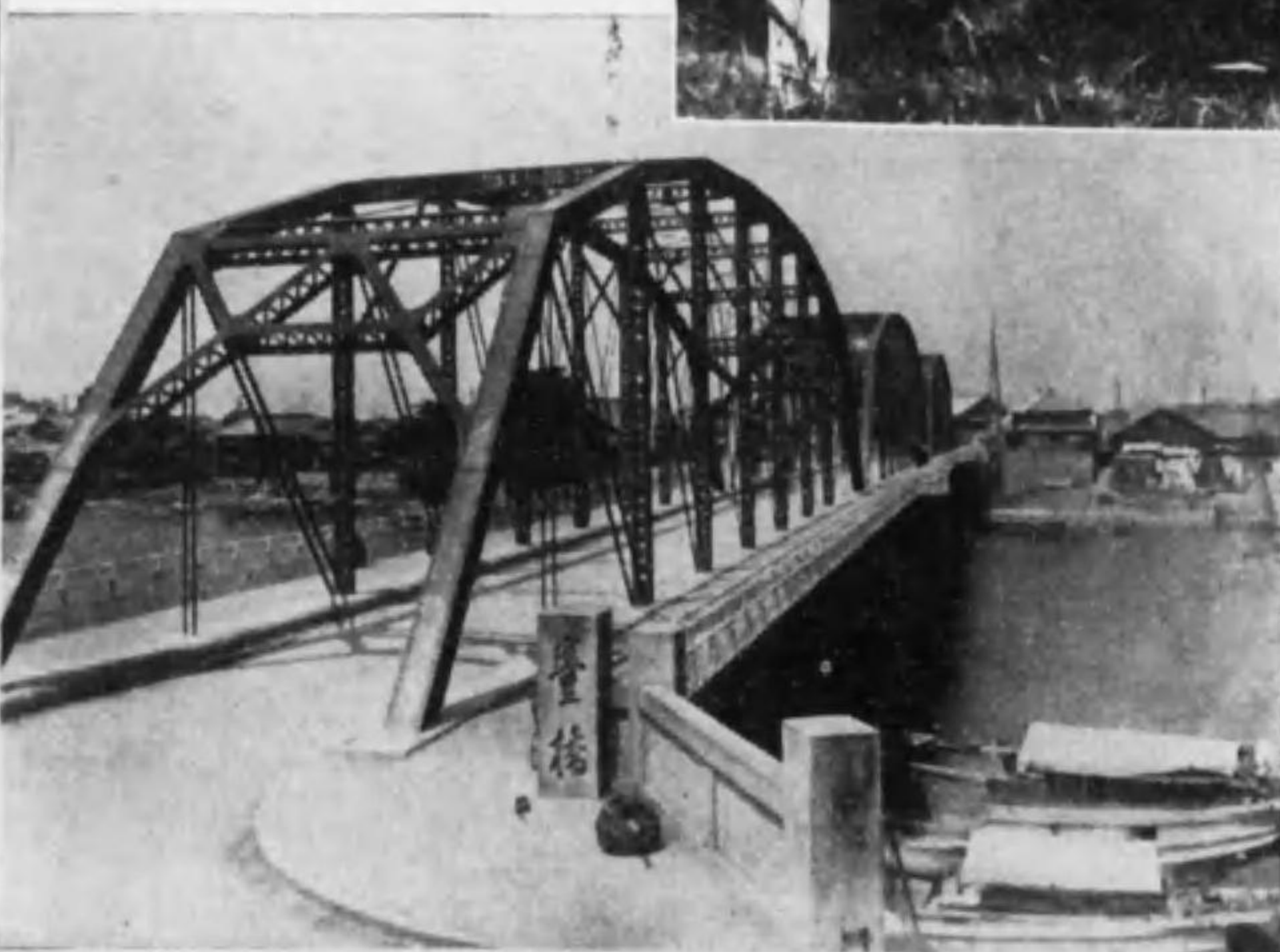


安城町共同經營苗代全景

大樹寺多寶塔(岡崎市)



豊橋市



大樹寺多寶塔(岡崎市)

蒲郡



鳳來寺



津島神社



國府宮裸祭



一宮市

豊橋市

名古屋驛—豊橋 一時間三十二分
神宮前—豊橋 一圓十四錢
七錢

市は豊川の南岸にあり、もと吉田と稱し松平氏七萬石の城下で東海道五十三次中の有名な宿場であつた。市は人口十四萬。

豊橋公園は市を一望の中に收める景勝の地に在る。其の他縣社吉田神社、名刹悟眞寺あり、市の附近には岩屋觀音、高師ヶ原、仁連木城址の名勝地がある。

旅館 岡田家、小島屋、壺屋、榊屋等宿泊料二圓半—五圓。
名物 白魚

濱名湖巡り

周圍二十餘里の大湖で沿岸は屈折多く山丘相重なり到る處勝景に富み四季の遊覽に適す。南は大平洋の怒濤に連り三方は山々の翠巒に圍まれ、遙かに富士の秀嶺を望む。巡航船は湖岸鷺津を起點として新所、入出、瀬戸、尾奈、三ヶ日に行くのと大崎、都築、佐久米、館山寺を経て氣賀に行くの二つある。

湖岸の主なる勝地としては
辨天島 島は青松で蔽はれ、三方には重疊たる山丘連なり東北に方り富士を遠望する事が出来る。島には辨財天を祀る。

濱松より三里 汽車にて 二十三分 二十一錢
名古屋より 二時間十三分 一圓四十八錢
バスにて 四十分 三十錢

館山寺 濱松の西北約四里、濱名湖中に突出した丘陵で麓に館山寺あり。奇巖怪石絶壁を作り、深淵碧潭自ら

凄惨の氣を催させる。丘は松樹繁茂し高さ四百米、湖内隨一の絶景である。

濱松驛からバス五十分 別途鷺津驛から巡航船の便あり (四十錢)

本興寺 (鷺津町)

湖畔に在る日蓮宗の名刹で、江戸末期の巨匠文晁が靈腕を揮つた壁畫と漢繪で天下に聞え、一名文晁寺とも云はれる。例年春の彼岸に古書畫什寶と共に一般に展覧される。

鷺津驛下車西五丁。濱名湖巡湖船は此處を起點として發着する。

濱松より三十二分 三十二錢 名古屋より二時間 一圓三十八錢

新居關址

關は慶長五年に設けられ箱根關所と共に海道に於ける要衝であつた。現在新居役場所在し當時の遺物がある。

濱松市 名古屋驛—濱松 二時間三十分 一圓六十三錢

市は人口十三萬。東に天龍川の清流を擁し、西に濱名湖の勝景を控へ、北は坦々たる三方原の古戰場に連り、南は渺々たる太平洋の波濤に臨む、景勝の地たると共に又織物樂器等諸工業都市として有名である。

市内の名所舊蹟として主なるものに五社神社(太玉命、武甕命、齊主神、天津兒屋根命、姫大神を祀り特別保護建造物となつてゐる。驛より七丁)縣居神社(國學者加茂眞淵を祀る。驛より十五丁)廣澤山普濟寺(釋迦牟尼如來を祀る。境域廣大で、林泉の美賞すべく、寺内に順德帝第三皇子寒嚴法皇禪師の廟あり、驛より十六丁)等がある。

瓶揚祭 凡そ三百年の歴史を有し勇壯活潑、全國でも珍らしい行事として知られてゐる。例年五月一日から五日間端午の節句を祝つて濱松市六十六ヶ町の青少年が三方原頭で糸を絡めて相闘ひ喚聲四圍を壓する有様は壯快言語に絶する。

名物 忍冬酒 (慶長年間元祖神谷彌平の創製した所で徳川家康に獻じ酒株の許可を賜つたのに始まる)

濱納豆 (濱名大福寺の僧の創始にかかり文祿征韓の役に同寺より納唐の名を附し豊太閤に獻じ大に嘉納せられたと云ふ) 甘納豆

曳馬萩筆 (曳馬野産の萩を軸とした筆)

三方原 濱松—三方原(濱松鐵道) 三十分 二十六錢

濱松、濱名、引佐の一市兩郡に互り東西二里餘南北三里、往古より曳馬野と稱して和歌の名所として名高く又武田信玄、徳川家康の兩軍勢鋭を盡した古戰場として名高い。近時開拓せられ飛行第七聯隊陸軍飛行學校、高射砲第一聯隊駐營す。

熊野御前遺蹟 濱松驛前より中泉(又は見付)行自動車で四十分

天龍川の東岸にある池田村行興寺には平家物語、源平盛衰記特に謡曲にて名高い平宗盛の妾熊野及其の母の墓がある。

四、靈山巡り

鳳來寺 神宮前—豐川—鳳來寺鐵道鳳來寺口—田口鐵道鳳來寺 二時間一圓七十九錢(往復二圓五十九錢)

當寺は推古天皇の御宇利修仙人の開創にかゝり文武天皇の勅願により建立になつた所で、其の後幾度か烏有に歸し

現在の本堂は大正十四年に再建したもので、日本三薬師の一、三河第一の靈場である。

露峰鳳來山は全山盡く火成岩よりなり、巖々たる巖山は海を抜くこと二千三百七十七尺、千百の老樹古杉全山を擁ひ鬱蒼として參道盡くは闊く千四百餘段の石階を上げれば山の中腹鳳來寺に達する。足下に三河の群山を俯瞰し絶勝の地である。靈鳥佛法僧は若葉の頃より十月の初旬に至る間、清涼の氣滿つる夜より曉にかけて啼き凄寂おのづこ身の緊まるを覚える。附近には東照宮、奥の院不動尊、尼の行場、行者越等の靈院勝地がある。歸路は行者越への嶮を踏破して鳳來峽の湯谷温泉場に下るのも變化があつて面白い。

例祭

新四月十七日。日本尊春季大祭修行、東照宮忌各代將軍の追福會を修す。

毎月八日十七日。本尊御縁日例祭修行

鳳來峽

神宮前—湯谷 一圓八十二錢
鳳來峽廻遊券(神宮前—鳳來寺—湯谷—神宮前) 通用三日途中下車二回(二圓七十五錢)

鳳來寺線湯谷驛を中心に南北二里餘に及ぶ三輪川の幽谷溪流を云ふ。河底は水成岩よりなる一枚岩を以てし水清く至る所小瀧をなし景趣洵に深いものがある。

奥山半僧坊

瀨松—奥山(瀨松雷鐵) 一時間十分 六十錢

臨濟宗方廣寺派の大本山で半僧坊大権現を祀る。開山は後醍醐天皇の皇子無文元選聖鑑國師の開基で元中元年の創建に係る。堂宇結構輪奐の美を盡し堂塔伽藍、幽邃なる溪谷、老杉巨柏の間に隱見して景致に富み世俗の聖地である。毎年十月に大法會修行せられ連月十六、十七兩日は信者遠近より群集する。

旅館 柳屋、花屋等 (一圓五十錢以上)

秋葉山

瀨松—二俣(遠州電鐵) 四十五分 五十錢
山麓大居町秋葉橋迄連絡バス(一時間 七十錢) 頂上迄五十丁(上り二時間下り一時間)

遠州隨一の靈山で海拔二千八百五十尺、山頂に縣社秋葉神社あり。火之迦具土の神を祀る。火防の神として崇敬されてゐる。山の裾には天龍川の激流奇巖を嘯み山中は老杉檜鬱蒼として天日を遮りり俗塵を離れた仙境である。

天龍下り

神宮前—豐川—鳳來峽—中部天龍(三信電鐵) 三時間 二圓四十八錢
天龍下り廻遊券によれば四圓八十錢(通用四日間途中下車自由) 經路 名古屋神宮前—豐川—中部天龍—西川—二俣—岩水寺—氣賀—三ヶ日—本坂峠—吉田—名古屋神宮前、途中 豐川稻荷、秋葉山、奥山半僧坊瀨名湖探勝には最も好都合である。

豪壯天龍川は源を信州諏訪湖に發し辰野盆地、伊那谷を経て此處に至り兩岸相逼り懸崖の峭壁左右に隆起突出し翠松鬱々其の間に點綴す、水勢轟いて耳を聳する間を舟行すること一時間飛沫水霧と化し壯快絶無である。

五、名古屋鐵道及高山沿線(犬山、岐阜、高山方面)

清洲城 柳橋—清洲 二十五分 十七錢

織田信長の覇業の基を開いた所で、桃山時代に於ては本邦有数の都市であつたが、今は清洲町を貫流する五條川畔の老樹鬱蒼たる中に一つの碑石が建てられてゐる。中央の小丘には文久二年齊藤拙堂撰文に依る「清洲城城碑」と「右大臣織田信長公城址」と刻した石標が蒼蒼して城址を探ねるとき轉た今昔の感に堪へぬものがある。

國府宮 柳橋—國府宮 二十九分 二十八錢

尾張大國靈神社と云はれ、祭神は大己貴命、太古尾張を平定して此の地に宮造りし給ふ、毎年舊正月十三日の追儺神事（裸祭）は天下の奇祭として有名である。

一 宮 名古屋一宮 三十分 二十九錢
押切（急行）一宮 三十四分 二十九錢

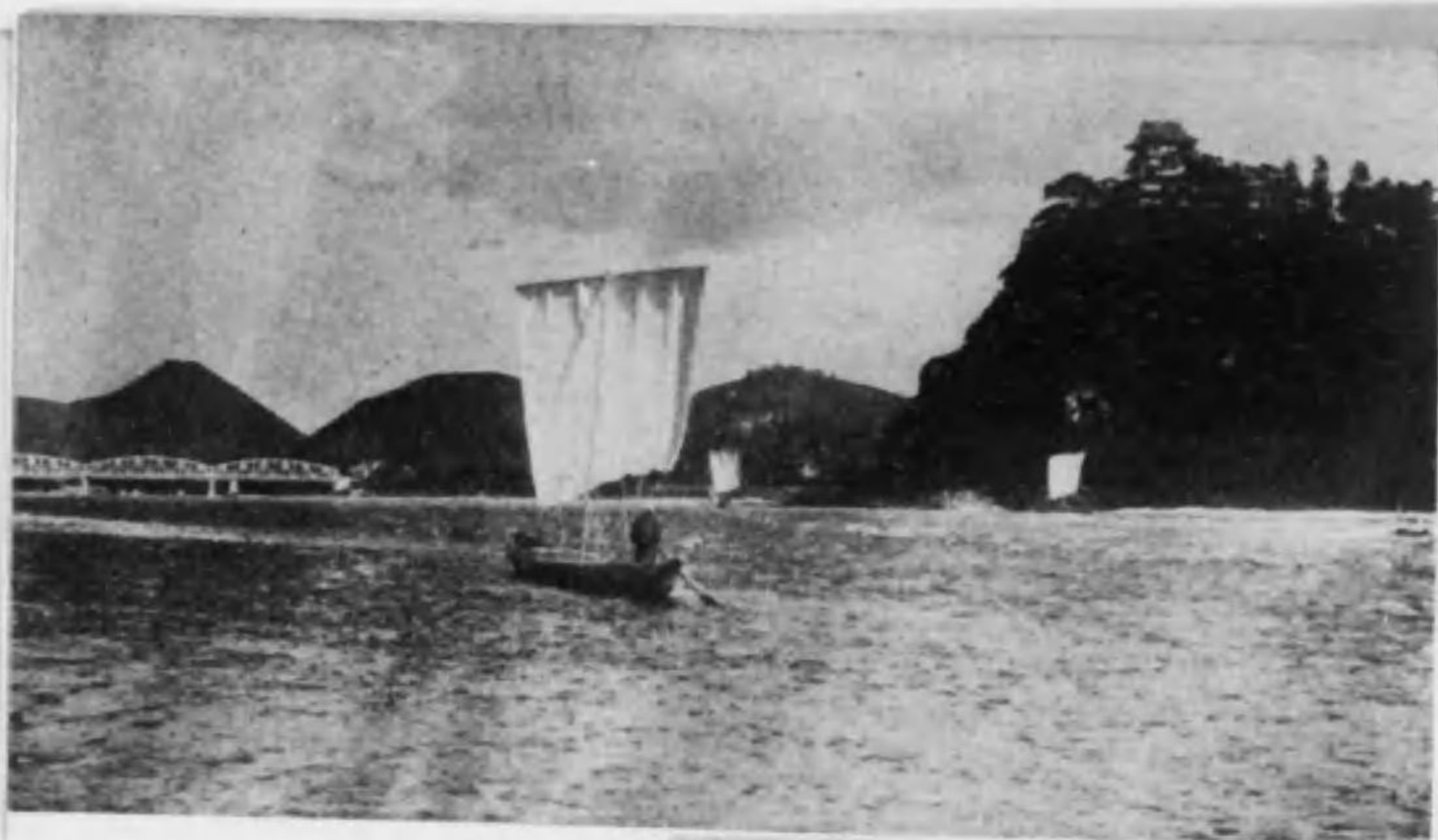
機業地として發達した處で人口五萬三千主として綿織物（年産五百萬圓）毛織物（年産五百萬圓）を産する工業都市である。市内に有名な眞清田神社がある。天火明命を祀り寶物の假面は稀古の逸品である。毎年四月三日の祭禮には祭車を飾り數百頭の飾馬を牽き盛観である。

津島神社 御橋一西枇杷島一津島 四十分 三十八錢
彌富一津島 十六分 二十一錢

國幣中社津島神社は古來日本總社牛頭天王と稱せられて世に名高く、境内は老松森々として神威自ら彌高し。本殿は國寶となつてゐる。毎年舊曆六月十四、十五日の大祭には多數の提灯を裝飾した祭船を天王川に浮べ、これに人形其の他の山車をしつらへ河中を廻回する。古來有名な船祭として遠近より集る者が多い。又天王川公園は櫻樹多く、下新田は藤の名所として有名である。

小牧山 上飯田一新小牧 二十分 二十三錢
柳橋一岩倉一小牧 三十二分 三十九錢

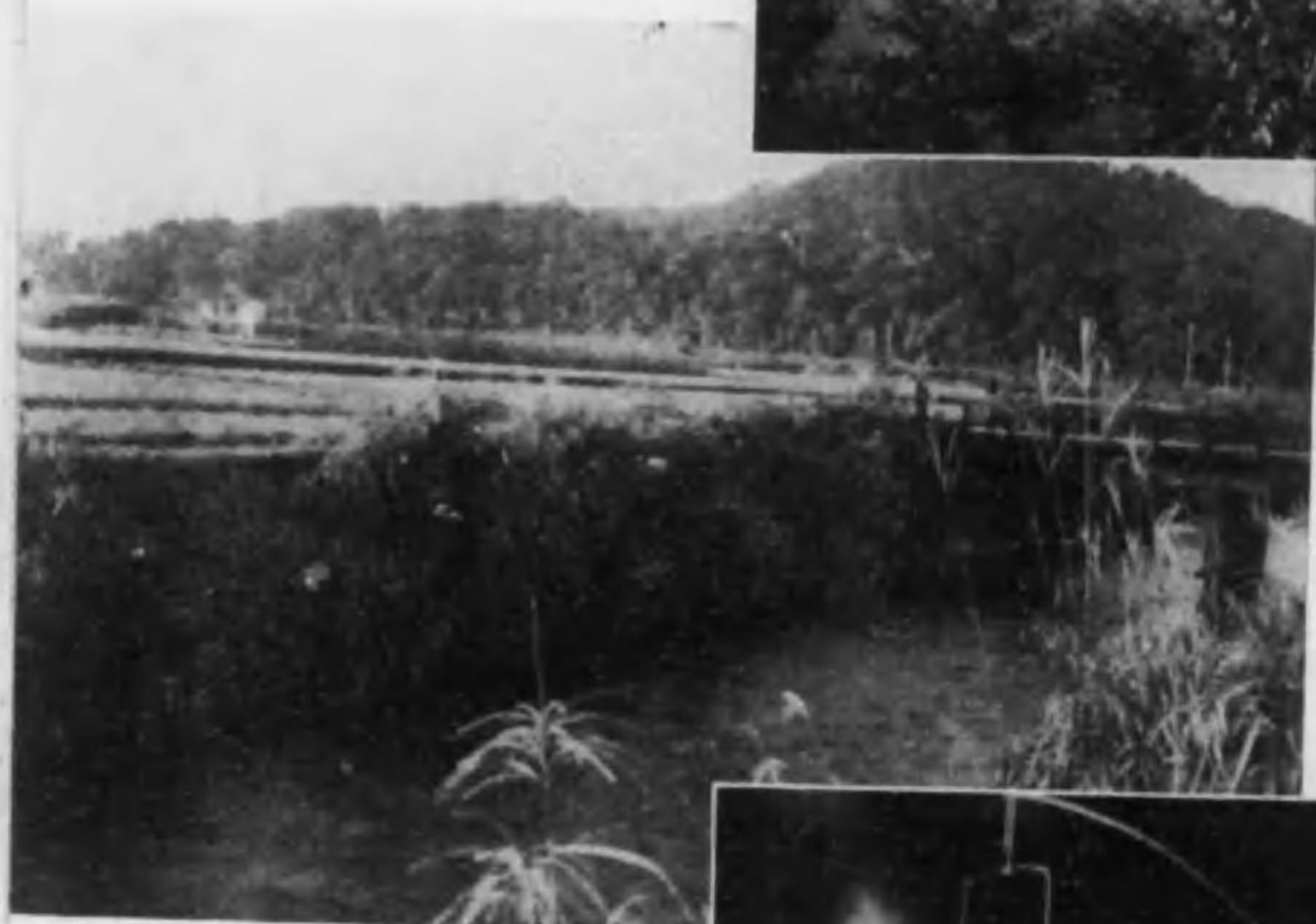
東春日井郡小牧町にある。長久手、桶狭間と共に尾張の三大古戰場である。全山は老松古檜に蔽はれ四時深翠を呈してゐる。天正十二年家康此處に陣して大捷を博したる由緒地であるが、今は此附近一帯は公園となつてゐる。近くに樂田の桃林あり、季節になれば滿目桃花爛漫と咲き誇り、戦蹟探勝と共にこの地を訪れる者が多い。



犬山城



入鹿池



小牧山古戰場



長良川鶺鴒



養老の瀧



定光寺



沼戸市



湯の山温泉

尾張三山 入鹿池

入鹿池 上飯田―羽黒 四十分 四十一銭
羽黒―尾張富士山麓まで バス 十五銭

犬山の東南一里、尾張平野に聳える本宮山、尾張富士、白山は名付けて尾張三山と呼ぶ。中にも尾張富士は奇祭「石あげ祭」を以て全国的に知られてゐる。入鹿池は此等の山に抱かれ風景頗る美しく、遊覧地として最近殊に有名となつた。

犬山城

柳橋(急行)―犬山橋 四十五分 六十二銭

犬山の城の白壁さやかに
うつりて清し木曾川の水

一名白帝城と稱し犬山町の北端木曾川の碧潭に臨んだ翠巒の頂上に聳へ立つ白亜の古城である。永享年間斯波氏の築城にかゝり、慶長年間成瀬氏(尾張徳川公の家老)の居城となつた。今の天守閣は美濃兼山より移したもので、外圍は三層であるが内部は五層となつてゐる。

天守閣よりの眺望は近縣無比と言はれ、こゝより眺める日本ラインの景勝はその極致とされてゐる。

城廓一帯は犬山公園となり、犬山橋に至る木曾川堤は櫻の名所として知られてゐる。鶴飼は此の橋の上、下流で行はれる。附近一帯には不老瀧、桃太郎神社、五色岩、ライオン岩等の奇巖景勝に富んでゐる。

名産 犬山焼、鮎の粕漬、鮎菓子、ライオン煎餅、葱苳酒等

ライン遊園地

柳橋―犬山ローライン遊園(五十分 七十七銭)―バス(十銭)

木曾川と可兒川とが合流する勝景大洞可兒合の激流に臨み櫻樹多く、川に臨む臺上には北陽館、大濤館等の宏壯な

旅館料亭がある。風光真に雄大を極めたる天下の絶勝地である。

ライン下り

御橋—犬山口—今渡 五十五分 八十二錢

大山を中心として「木曾川は上る可し、下る可からず」と云はれてゐる。日本ラインは木曾川の上流岐阜縣可兒郡土田村より犬山城まで約二里半の木曾川を云ひ、嘗て一代の地理學者志賀重昂氏が此の地の風景を嘆賞し名付けて日本ラインと呼んだ。一度輕舟に身を任せて航下するとき、大自然の妙味を極めた雄渾絶美の風景は變轉極りない河川美を現出して一氣に素通りするにはあまりにも惜しい眺めである。ライン下りの定期船は次の如くなつてゐる。

四月一日—八月三十一日 (毎日四回) 二月十七日—三月三十一日 (毎日二回)
九月一日—十二月八日 毎日二回

普通はライン遊園地から乗船するものが多いが更に爽快味を探らんにはこゝより上流の太田橋或は木曾、飛騨南川の合流點たる高山線古井驛下から乗船するのを可とする。

乗船料

ライン遊園地—犬山橋 貨切 四圓 乗合 四十錢
太田橋—犬山橋 貨切 五圓 乗合 五十五錢
ライン下り廻遊券(御橋—ライン遊園—犬山橋—柳橋) 一圓五十錢

岐

阜

名古屋驛—岐阜 四十七分 四十九錢
押切(急行)—新岐阜 四十分 四十九錢

東に山を負ひ、西北に長良川の清流を控へて山翠水明、小京都の名がある。金華山は市の北端にあつて山麓より頂上まで約十八町、其處には鎌倉幕府の頃二階堂行政が初めて築いたものと傳へられる古城址がある。長良川の鶴飼は毎年五月十一日より十月中旬まで上弦の夜は月の入るを待ち、下弦の夜は月の出ない先に行ふ。鶴舟の軸に鶴火を焚き鶴匠は一人にて十二羽の鶴をあやつり、鶴の勇ましくも亦敏捷な動作と鶴匠の熟練せる妙技とは、實に古典的情趣に富んでゐる。

遊覽者は長良橋畔にある市營遊覽船事務所に行けばいろいろの斡旋をして呉れる。遊覽船は五人乗以上三十人乗まで六十餘艘あつて、其の使用料は船夫付三圓五十錢より二十五圓迄である。

名産 縮緬、絹袖、岐阜提燈、團扇、粕漬等
市内主なる名所舊蹟

- 金華山城 驛より二十五丁 市電本町下車
- 岐阜公園 ク 三十一丁 公園前下車
- 名和昆蟲研究所 ク 三十一丁 同
- 長良堤の櫻 ク 一里八丁 長良鶴飼屋下車
- 旅館 長良川ホテル、萬松館、玉井屋、濃陽館等

養老の瀧

名古屋驛—大垣(參宮)—養老驛 一時間二十五分 一圓五錢
名古屋驛—桑名(參宮)—養老驛 一時間二十分 一圓九錢

養老驛より山路約十八丁(バスの便あり)登れば澄々の音を聞く。壯觀と孝子の傳説にて天下に名高い。直下十丈

餘、綠樹鬱蒼たる間より奔下してゐる。附近一帯の地は養老公園となり養老神社、千人塚、菊水露泉、妙見堂、行宮古址、養老寺、大悲閣等、勝景古蹟に富む。

各務ヶ原 柳瀬—鶴沼—二聯隊前 七十四錢

木曾川の北岸に位し廣漠たる飛行場がある。此の地はもと陸軍の演習地であつたが大正七年十一月に航空第二聯隊が設置せられ、更に大正九年五月には航空第一聯隊が所澤から移轉して現在に及んでゐる。尙此の地はつみ草、ハイキング、ピクニックに絶好の清遊地である。

中山七里

名古屋驛—岐阜—金山乃至下呂驛 名古屋—金山二時間半 一圓四十九錢
又は名鐵にて新鶴沼驛由(下呂温泉の項参照)
金山下呂間自動車賃切 六圓

飛騨金山驛から下呂町の近くまで飛騨川の上流益田川七里の峽間は景勝の區域で中山七里と呼んでゐる。九州の耶馬溪を移した景観、古來幾多の文人墨客をして天下の絶勝を叫ばしめた處である。瀧岩、屏風岩、小野川原、羅漢岩、三ツ岩、逆縦等の絶勝奇景特に有名である。觀賞は四季を通じて何時でも不足はないが、殊に「秋の中山色にぞ迷ふ綾か錦か繪か夢か」と唄はれて居る通り秋が最もよい。今日では高山線の全通と共に車窓から其の一端を眺めつゝ通り過ぎる者が多い。

下呂温泉

柳瀬(急行)—新鶴沼(直通列車)—下呂 二時間十七分 二圓八十錢(往復)
名古屋驛—岐阜—下呂 一圓三十七錢

海拔一千三百尺の高原地帯に飛騨川(日本ラインの上流)の清流を俯瞰し北アルプスの連峰を眺め、風光明媚、視野雄大、空氣清朗人情淳朴にして一千年の歴史に培はれた床しい色調と傳説の纏る芳醇な温泉郷である。

温泉は弱鹽類性無色透明の硫黄泉で、木の香も新らしく高樓の軒を竝べた温泉旅館は何れも内湯を備へてゐる。宿泊料は普通參圓五十錢であるが團體投宿の場合は相當の割引がある。旅館湯之島館、水明館、山田館、伊佐地、下呂ホテル等。土産品下呂人形、桑細工品、下呂煎餅

六、關西沿線

湯の山温泉 名古屋驛—四日市(三重鐵道)—湯の山

普通 二時間 五分 一圓七錢
急行 一時四十分 一圓七錢
湯本までバス 十分 二十錢

鈴鹿山脈の嶺々起伏する谷間にある。附近は山紫水明の溪谷美に満たされた静寂なる温泉郷である。脚下には三龍の清流が流れ三方は鈴鹿の連峰に圍まれ、只東方一角のみ開けて、遠く伊勢灣、知多半島を一望に收め得る。泉質は無色透明のアルカリ性でリウマチ、濕疹、胃腸病に效能がある。旅館 香雲館、露亭、紅葉屋、松屋などあり、一泊二圓乃至五圓の宿泊料である。

阿漕ヶ浦 名古屋驛—桑名 三十五分 三十八錢 桑名伊勢電阿漕下車

謡曲「阿漕」で名高い阿漕ヶ浦は風光明媚極りなく春には潮干狩夏には海水浴場として好適の地である。附近に天正二年の建立にかゝる阿漕塚がある。俳聖芭蕉の「月の夜を何と阿古木に啼く千鳥」の一句が刻まれてある。

鼓ヶ浦 名古屋驛—桑名 三十五分 三十八錢 桑名(伊勢電)—鼓ヶ浦 十五分

伊勢灣第一の景勝を占め對岸は模糊の中に知多半島を眺め、背後は伊勢の翠巒が聳へ、白砂皎々として里餘に續く所老松巨松萬變の姿を盡し、颯々と打寄せる潮の音は、その響名手の鼓に似たりとて古來此の名がある。此の地は波靜に水淺く海水浴場として恰好の地である。

桑

名 名古屋驛—桑名 三十五分 三十八錢

掛斐川尻に發達した古い町で往時は東海道五十三次の海の要衝で尾張熟田に達する七里の渡場を扼し、徳川幕府の頃關西參觀の諸侯は必ず此の地に足を留めたと云ふ。

附近には桑名城址、桑名宗社あり、毎年七月十一、十二日の祭禮には四十餘臺の山車を曳出し全町擧つてお祝ひする石採祭は天下の奇祭として名産桑名の「時雨蛤」と共に全國に著名である。

七、中央線、瀬戸電沿線

龍泉寺

森下(瀬戸電)—小幡 十二分 十二錢

小幡驛より北十八町。天台宗に屬し延暦年間傳教大師創建の古刹である。尾張四郡管の一として厄除、開運の守護神である。寺は龍泉寺山の頂上にあり眺望佳く、近時櫻、桐等を植え春秋の行樂に恰好の地である。

小幡よりの沿道は所謂小幡ヶ原と云ひ、小幡原演習場、名古屋飛行學校がある。

瀬戸市

大津町—瀬戸 五十分 四十六錢

名古屋市の東北五里世に「瀬戸物」と稱せらるゝ陶磁器の全國的代表生産地であつて、其の生産額一千三百萬圓、

稱せらる。

當市の繁華は貞應二年加藤四郎左衛門春慶が宋に渡り其の技を究め以て今日の基礎を造つたものである。

市は三方山を負ひ西南のみ僅に開け、瀬戸公園は地域は、あまり廣くないが自然の山容を収入れて風致に富み、山上には陶器を以て造れる丈餘の陶祖碑がある。

尚驛より東方約一里十町の處に赤津雲興寺あり盜難除の守札にて名高い。(瀬戸驛よりバスにて二十分 五十錢)

高藏寺

名古屋驛—高藏寺 四十五分 三十八錢 千種驛からは 三十分

高藏寺驛より約三丁で、玉野川の清流に臨む事が出来る。鹿乘橋のあたりは最も風光佳く、春秋はピクニックの好適地として喜ばれてゐる。

定光寺

名古屋驛—定光寺 五十分 四十八錢 千種驛からは 三十五分

驛は玉野川の溪流に臨んだ岩壁の中腹に在つて、兩岸は斷崖をなして川を挟み、水は岩底を鞠んで飛沫をなし脚下には吊橋が虹の如く渡されて、中央線の一勝景をなしてゐる。寺は山頂に在り、嘗て尾張藩祖義直公此の地に遊び其の景趣を愛し遺言して廟所と定めた。

虎溪山

名古屋驛—多治見 一時間 五十八錢 千種驛からは 四十分

驛より東北十五町寺は虎溪山永保寺と稱し、夢想國師の開基にかゝる臨濟宗の名刹である。境内の廣大なる天然を利用し泉石の妙を得た庭園は、支那の廬山に似てこの上なく雅趣に富んでゐる。又境内には六百年前の建立にかゝる觀音堂があり、現在は國寶となつてゐる。

惠那峡

名古屋驛—中津川 二時間十五分 一圓二十五錢
中津川より惠那峡まで八丁、大井ダムまで三里

中津川驛附近より下流二里に亘る神秘の淵惠那峽、兩岸に相窺んで互に其の瀾を競ふ奇巖怪石の雄姿、岩と水とを以て幽玄美妙を誇る惠那仙境こそ正に日本の代表的景勝といふべきであらう。

男伊達ならあの木曾川の

流れゆく水止めて見よ

大正十三年惠那峽の下流は大同電力株式會社の大井ダム竣工して此の湧流をカッチリと堰き止めて今は瀾々たる一大鏡湖となつて別趣の景観を現出している。

遊船料 (惠那峽下り)

定期船 毎日午前十一時半及午後二時發船 片道八十錢 往復一圓

モーターボート 三名迄 五圓 一人増す毎に五十錢

屋形船 十名迄 十二圓

寢覺の床 名古屋驛—上松 三時間二十分 一圓八十六錢

上松より西方約十二、三町自動車の便がある。

出づる嶺入る山の端の近ければ

木曾路は月の影を短き

木曾路名勝中の随一、木曾川の兩岸が迫つて千態萬狀を爲し山水奇岩を以て古來有名である。東岸に臨川寺あり、翠巒る佳。

淺間温泉 名古屋驛—松本 五時間三十分 二圓四十七錢

松本市の東北二十町電車の便あり。十五分

海拔二千二百餘尺、所謂松本平の一隅を占め、東北には犬飼山の松林を背ひ、西は女鳥羽川の清流に臨み、西南は平けて遠く雲表に聳ゆる日本アルプス連峰を望む。風光明媚展翠雄大附近には縣營運動場を控へ、一夜の旅情を慰めるに恰好の地である。尙附近には山邊温泉もある。

旅館 鷹の湯、女の湯、東石川、西石川等

宿泊料 一圓五十錢以上六圓まで。

名物白樺細工、山葵漬、白玉

八、主なる年中行事 (市外の部)

三月四日	華濃輪稻荷神社 (清水) 三日間	四月十九日	藤四郎祭 (瀬戸)
四月三日	桃花祭 眞清田神社祭 (尾張一宮)	五月一日	結城神社祭 (津) 賑場會 (濱松) 五日間
四月四日	岐阜祭 二日間	五月四日	五社神社祭 (濱松)
四月五日	犬山祭 二日間	五月十一日	長良川鶴飼開始 (十月中旬まで)
四月十一日	縣社本居神社祭 (松阪)	五月十五日	八幡神社祭 (大垣)
四月十六日	故板垣伯遭難慰靈祭 (岐阜)	五月廿一日	岡宮神社祭 (松本) 二日間
四月十七日	權現祭 (岡崎)	五月三十一日	尾張富士石上祭

339
1278

昭和十一年十月二十五日印刷
昭和十一年十一月五日發行

編輯者 名古屋汎太平洋和博覽會
印刷者 高橋通平

名古屋市中區南吳服町二ノ二二
合資會社 高橋成弘社

八、主たる平山

計開白濁工、山崎、白土、印刷所
昭和十一年十一月五日印刷
昭和十一年十一月五日發行

名古屋市中區南吳服町二ノ二二
合資會社 高橋成弘社

終